

得は無理と言う事で大学の教授達とも相談の上、バラグァイで教育する上に必要と思われる科目だけを選択した。

また、日本の社会、文化の発展ぶり、すぐれた、あらゆる技術、そしてなによりも正しい日本語が使えるようになるのが、私の当初の計画でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

私の研修内容は、保母です。最初の一年は高知女子大学保育短期大学部で、聴講生として学ばせて頂きました。当初は、来日したばかりなので、講義内容をあまり理解出来ないのではないか、また、体調をくずすのではないかと、先生方の優しい心使いの中で研修させて頂いて来ました。ここで、南米で保育する上で必要と思われる科目は、出来るだけ受けようと1・2回生の授業をかけもちで受けました。保育原理、心理学をはじめ一般教科、生物学、家庭管理を含め27科目を受けました。

後期は、北海道北区太平保育園で実習させてもらいました。ここでは他の保母さんと同様に子供達や、父兄の方とも接触して来ました。又、近くの幼稚園にも見学に行くことも出来ました。理論的とちがって、実際に体で幼児にぶつかるのは、仕事としても生きがいを感じるものです。わずか5ヶ月と言う短い期間ではあったが、幼児に対して教員としての一言一言の重要さを教えられました。実習をすることで、さまざまな遊びや遊戯、その季節や行事に合ったものを、覚えたと思う。



最後の3週間は、国際女子研修センターでの研修。ハードスケジュールを見た時は、気持が重くなりましたが、仲間といっしょに、自分の手で作り、出来上っていくものを見ながら女性としての喜びを感じました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

全体的には、最初の計画の通りだと思います。勉強をして行く中、プラスになる方行に進めました。結果的には、予定以上に専門以外の分野まで学んだと思います。

7. 合同研修会について

6ヶ月ごとに行なわれた合同研修会は、バラバラに研修している私達には、その研修報告や雑談により、他の県の状況や生活等々の交換することで喜び、苦しみを分け合い、又、同じ南米でも、知らないことばかりです。

帰国後も、同期生として、日系人としての仲間が南米中に出来たようです。

8. 本邦での生活状況

1年6ヶ月を通して、これと言ってこまったことはなかった。前期は下宿生活で、自炊でした。自炊には、慣れていたが日本の生活は合理的に出来ているので最初の頃は、パック類、メン類を好んで食べていた、しかし便利な分生活費もかかるので、いつの間にか自分で作って食べるほうが多くなった。

後期は親類の家でお世話になったので、なにかと便利でした。研修期間に、日本の南と北の生活を体験してきましたが、日本は楽しめる場所はたくさんあります。みかん刈りからスキー、スケートすべて挑戦してみました。様には、ならなかったが、日本での生活は充実したものでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

二世、三世の世代になって来た現代、
祖国との交流は、もっともっと必要だと思
う。一世の少なくなるにつれ、血をわ
けた親類とさえも、付き合いがなくなるの
は悲しいことです。これからも、一人でも
多くの若物が日本で学べるよう受け入れ
て下さい。

13回生から始まった、国際女子研修セン
ターの特別研修は、これからも、続けて
下さいますようお願いします。



10. 所感（帰国後の抱負を含め）

研修先であった、高知女子大学保育短期大学部、及び太平保育園では、それぞれ立派な先生方から各分野の知識を教えて頂き、幸福でした。先生方には、心から感謝しています。

またこの機会を与えて下さった、JICA、四国、北海道支部の皆様をはじめ担当職員の方々にはお世話になりまことにありがとうございました。色々な体験を積み重ねてきた18ヶ月間すばらしい友人にも恵れ、悔のない研修を受けさせてもらいました。帰国後の就職はまだきまっていませんが、できるだけ地域住民の人々の期待に、こたえられるよう努力したいと思います。

専攻の保育のあり方も、現在、日本で雑誌や新聞で紹介されている教育方針をバラグエイの日系社会に取り入れるのは正しいかどうかわからないが、日本で学んだことを基礎にバラグエイで教育してゆく上で、その地域に合ったものになりたいと思います。

最後に、日本の特様によく、日本のどんなところが気に入らないかと聞かれました。どこの国にも、良いところも悪いところもある、しかし私が、不信に思うのは、自分の住んでいる日本を悪く言う人が以外に多いこと、外国に対して持っているコンプレックス、日本はすばらしいところです。もっと、自分の国にほこりを持ってほしいと思います。



桜井 真紀子 (パラグアイ アマンバイ)

1. 研修機関 (1) 前期 住吉外科病院及び福岡市医師会看護専門学校 (高等課程)
(2) 後期 同上及び福岡市立第1病院
2. 研修期間 昭和58年4月～60年3月

3. 研修職種 看護 (准看護婦)
4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

学期別		区分	一般教科	専門教科	住吉外科実技	専門科実習
第一学年	1学期	4月～7月	座学	座学講義	病床の作り方 各種器具の勉強 消毒	
	2学期	9月～12月	"		血圧, 脈の測定	
	3学期	11月～3月	"		検尿 血算方法 レントゲンについて ギプスについて	
第二学年	1学期	4月～7月		座学講義 実習	手術の見学 器具の消毒	市立第1病院
	2学期	8月～12月		"	婦長の指導下で 注射の実技	"
	3学期	1月～3月		"	全般総合の 実習	"

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

(1) 一般教科, 英語, 音楽

英語はスペイン語と異なる単語はありますが, 日本語よりは簡単でありあまり苦しむことはありませんでした。音楽は何とかついて行けました。

(2) 専門教科

① 共通: 解剖生理, 微生物, 個人衛生, 栄養と食事, 薬理, 公衆衛生, 福祉・衛生法規, 家事家政, 看護歴史看護倫理, 看護原理及び実際の10科目

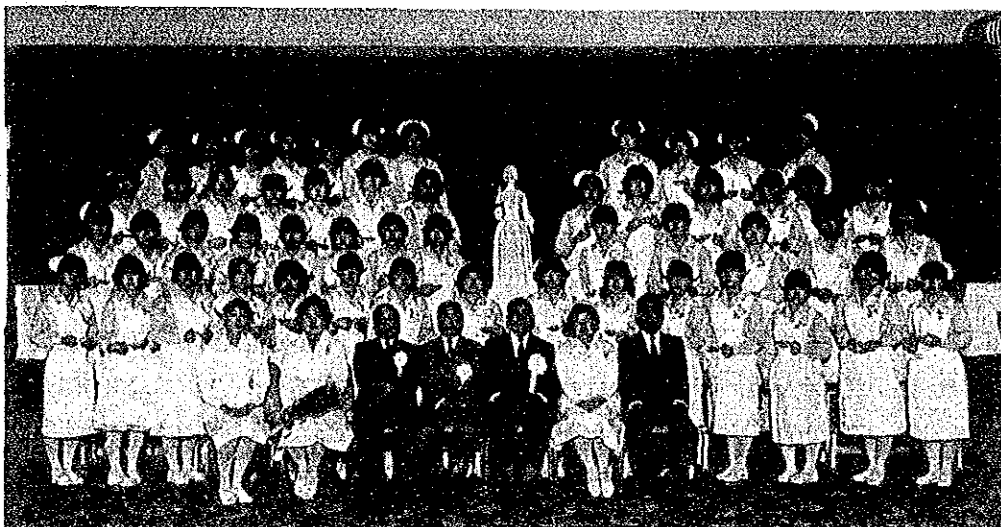
② 専門教科: 内科疾患と看護法, 外科疾患と看護法, 整形外科疾患と看護法, 小児科疾患と看護法, 産婦人科疾患と看護法, 耳鼻咽喉・歯科疾患と看護法, 眼科疾患と看護法, 皮膚泌尿器科, 放射線科, 精神科等疾患と看護法, 臨床検査の11科目

以上の専門教科を2年間を通じ座学及び機会教育で勉強して知識を習得しなければならない。特に1年生の間でその概要を修得することにあつた。しかし日常使う日本語程度しかわからない私は

言葉の意味と人体の構造図の意味を理解するまでに大変戸迷い苦しみました。追試でくやし泣をすることもたびたびありましたが、なんとか医学専門語を解せるようになってから興味もわき、意欲的に行動できるようになったときのうれしさは言葉で表現できない喜びでした。

実習：毎日看護学校で習ったことを病院に帰ってから先輩に実物でおそわり基礎的な事を体得することができました。

各科の専門実習は市立第1病院で疾病の理解と看護法をそれぞれの科に応じ実際の患者を受けもたされ、看護してみてはじめて看護婦としての責任と生命の大切さを学びとることができました。



戴帽式 (59年3月)

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

- (1) 看護専門学校高等課程は、学校教育法で規定されているので、研修計画どおりでした。でも、日本語の理解に苦しみ当初は、勉強におわれどうでした。
- (2) 病院内の諸行事（旅行、食事会、クラブ活動、レクリエーション）に参加し日本人の風習や言葉歴史等を視聴覚で体得でき、貴重な勉強となりました。

7. 合同研修会について

なれない日本での生活で、辛い事や悩み事が数多くあったので、合同研修会にて同期研修生とのスペイン語、又はポルトガル語での意見交換など、とてもはげみになることでした。

8. 本邦での生活状況

両親の生まれ育った日本での勉強は、甘い夢の少女で、叔父さんや叔母さんにあえる喜びの方が強かった。最初の1カ月は、日本に来たという実感と親せきの方々とお話できた事で満足でした。

でも、親元をはなれての寮生活は除々に精神的なゆとりを失ない、夜は熟睡できなくなり、むしように泣きたい気持ちになったこともありました。

しかし、研修の目的を再認識し、規律ある時間行動に自分の行動調整ができるようになるには、6カ月必要でありました。私は人との交わりが不得手でありましたが、寮の先輩に可愛がられ親切に色々な面で教えていただいたので、日常生活にも順応でき、きびしい勉強にもなんとかついて行けるようになり、後、半年で修了となります。



研修旅行、男鹿半島（秋田）

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- (1) いずれの研修内容でも、日本語をよく勉強しておくこと。特に看護課程を希望される研修生は医学用語、ならびに人体模型による各部の専門語を理解しておく必要性を痛感しました。
- (2) 准看護婦課程は2年でありますので、当初より2年研修で研修させていただけるように要望いたします。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

今回の看護研修で個々の役割をはたすことの重要性を体得できました。特に責任感、協調性、愛情、信念、実行力、相互協力等は、今後の私の進む前途の信条として大切にはぐくみ、祖国日本でいう研修の宝といたします。

帰国後は、2年間の看護研修の機会をあたえて下さった国際協力事業団、住吉外科病院、看護学校、そして指導して下さいました数多くの皆様から伝授された貴重な医学の知識、准看護婦の技倆等をバ国医療発展に微力ではありますが、役立てたいと感じている昨今です。

国際協力事業団から、この機会を与えられ日本へ来れた事を心から深く感謝しております。色々とアドバイスしていただいたり、あたたかく見守って下さって、また合同研修会、研修旅行など、日本のあらゆる所へ見学させていただいて本当に素晴らしい研修を受けることができました。



齊藤 寿子（パラグエイ イグアス）

1. 研修機関 (1) 前期 玉川大学文学部教育学科
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 保母（幼児教育）

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

保育と幼児教育について

移住地内の生活状況から感じた子供達の将来、Paraguay 人との交流関係など、幼児期から生活環境や教育指導が将来の影響に結びつく大切な時期であると感じ、幼児教育に関する知識と認識を深め日系人の将来を考えたいと思いました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1年半を通して、玉川学園にて、保育並びに、幼児教育関係の研修をして来ました。

1年間の研修は、国際教育室で、講義内容と幼稚部実習の計画を立てて下さいました。

<大学前期>

女子短期大学保育科：造形Ⅰ・Ⅱ、保育内容、音楽リズム、保育内容健康、発達心理学、
研究生特別講義：心理学研究、児童文化研究、

文学部芸術学科児童専修：リトミック、児童イラスト、児童造形表現研究、レクリエーション
指導法

文学部教育学科：児童演劇表現研究及び実習

その他：スペイン語

夏期スクーリング：国語、音楽リズム、視聴覚教育

<大学後期>

月曜日幼稚部実習の為、造形Ⅰ、レクリエーション指導法が除かれる。

大学テスト、休暇期間中幼稚部実習、進学期からは、国際教育室の面接を通して、講義内容は自分で選択する事ができました。

文学部教育学科：道徳教育の研究、教育哲学、教育心理学、全人教育論、児童文化、児童言語表現研究、保育学、保育学概論、体育教材研究、音楽教材研究

文学部芸術学科児童専修：児童の音楽リズム ゼミ：国際関係論 女子短期大学保育科：

ピアノ実技 毎週金曜日：小学部見

学実習 夏期スクーリング：音楽専

攻、教育演習

59, 9, 3～9, 22まで国際女子研修センターにて いけ花、茶道、アートフラワー、はり絵、料理、育児、救急看護、歌舞伎、能楽観賞など特別研修がありました。

以上の研修内容を通して、幼児教育に関する知識と視野が広がり、児童観、教



育観の認識も深まりました。特にリトミック、音楽活動から人間の素晴らしさ、喜びと感動を実際に体験できました。

実習では、子供との接し方、考え方、受け答えなど大人同志のように通用しない事が多く、子供の見方、感じ方、考え方など子供から学び取る事を通して、いろいろな発見がありました。

女子特別研修も、日本の代表的文化である一部分を体験することができて、充実した、最後の研修生活が過ごせました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画以上に様々な分野を幅広く学習する事ができ、とても充実した研修でした。でも講義、実習、日常生活全てが、玉川学園でしたので、他の地域社会においてノータッチであった事が、残念に思います。

7. 合同研修会について

皆それぞれに違う研修内容で、報告会などを通して地域社会、研究内容など、新しい視野が広がり、研修生との交流も深まり、心休まるひとときを過ごせました。

8. 本邦での生活状況

1年半の研修期間、玉川学園で生活して来ました。日常生活も大学塾（寮）で、全て玉川の精神と方針でした。

日常生活を紹介すると、朝6:00太鼓の音と共に起床し、身仕度、部屋清掃 6:30 聖山礼拝 7:00会食、7:30 ~ 8:00特掃、6:00 帰塾、6:30会食、7:30 ~ 10:00 自習室にて自習時間（入浴）、10:30 完全消灯、以上の様に毎日が規則正しい生活です。1日が歌で始まり歌でおわると言う程、毎日が歌と共にあり、集まりの中で歌う事の楽しさが経験できて、音楽好きの私にはこの上なく明るい生活でした。

その他、各階、各塾、学年別部会、委員会など組織があり1人1役で全てに自分が存在します。委員会は、撮影録音委員会に所属しカメラ、ビデオ、8ミリなどの機材で、塾の行事や生活を資料として残す労作活動を実行しました。

塾生活の中でも様々な行事がありました。入塾式、誕生者紹介、階紹介、合唱発表会、etc.



大学では、毎年12月1日に音楽祭が行われベートーベンの第九合唱にソプラノのパートで参加しました。音楽を通して、大きな感動と喜びを経験できました。

学園全体では、体育祭、クリスマス礼拝がありました。一つ一つの行事から素晴らしい思い出がで

きました。

塾内での教義講座では、書道に入部し、大学のコスモス祭（文化祭）に掛軸を展示しました。

クラブは芳術会に入部し、玉川の労作教育を实践し、余人教育、玉川の歴史などより深く研究する事が出来ました。

学年別部会、ディスカッション、勉強会などにも進んで参加し、視野、知識が広がり、とてもプラスになりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修期間が1年半だと学校で研修を受ける場合中途半端なので、研修職種によっては、2年間の期間が必要だと思います。

私の場合、生活状況が特殊な為に来てからの準備が大変でしたので、研修先の環境生活状況など前もって報告していただきたいと思います。女子特別研修も中身の濃い研修内容で皆との交際も深まり、楽しい充実した最後の研修生活を送る事ができて大変よかったですと思います。今後もこの研修を続けて下さる様お願いします。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

この研修で5年振りに帰国して、新ためて南米と日本の環境、習慣、文化、社会の大きな違いを感じます。

塾生（大学教育学科）との勉強会、国際関係論などの講義を通して、現代日本が、急速な、科学的進歩からなる社会問題を、哲学的に、日本人とは、人間とは、なぜ手を持って生まれたかなど、人間性を考え直す必要があると思います。南米もこれからの工業、産業、企業、技術の発展の為に、70%前後の文盲率を開拓し、教育に力を入れ、豊かな将来を築く基礎づくりが必要だと思います。

短かい期間でしたが、諸国の社会問題の一部分を悲しい程感じます。

これから、1人1人が、諸問題に対する根強い努力が必要だと思います。いつも努力を惜しまぬ人でありたいものです。

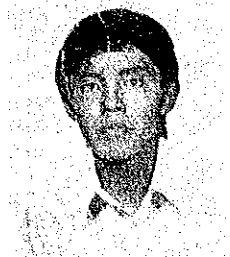
文学的教育と共に芸術教育も、創造性、想像性、感受性、個性など情緒豊かな人間性の活力として、将来に大きく影響することが理解できました。南米も1日も早くこの全てが、統一された社会環境になってほしいと願っています。

玉川学園の丘で学んだ、「人になる為の人の教育」これこそが人間としての課題であり理想だと思います。

1年半日本で研修できた事をお世話になった皆様方に心から感謝しています。今の気持ちを忘れずにこれからも努力して行きたいと思います。

帰省後の計画は、学校の勉強を続け、将来教育関係へ就職したいと思います。

本当に皆様、どうもありがとうございました。



宮 園 文 雄 (ポリヴィア サンファン)

1. 研修機関 (1) 前期 農林水産省十勝種畜牧場 (昭和58年4月
~59年3月)
(2) 後期 (有) 町村農場 (昭和59年4月~8月)
宮崎県種畜牧場 (昭和59年9月)

2. 研修期間 昭和58年4月~59年9月

3. 研修職種 酪農

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

(1) 一つの技術を身につけること

- ① 酪農を畑作経営にとり入れるための基礎技術を学ぶこと。
- ② 有機物利用についてもっと知識を深めること。
- ③ 先端技術や、自然を生かした、きめこまかな効率的作業法を身に付けること。

(2) 自分の身のまわりを見なおすこと。

- ① 自分の経営を一步はなれて新しい知識をもって見なおすこと。
- ② ポリヴィアを外から見ること。

(3) 研修生活をとおして自分一人をためすこと。

- ① 知識や視野を広げること。
- ② 私自身のパーソナルティをためすこと。

(4) 18カ月間にありとあらゆる知識, 情報, 体験を得ること。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

私の専攻は酪農で、自然から切りはなすことのできないものです。しかし現在の日本では、品質や生産性を高めるためいろいろな、技術が持ち入れられています。一部では、バイオテクノロジーをつかって牛乳や、肉牛生産以上の成果をあげること。受精卵の分割などと、非常に高度な研究が進められています。半面、そんな先端技術をいく中で、今まで失なわれつつあった自然を生かした技術も見なおされ、利用効率や生産性の向上につながりつつあります。

たとえば、コンピュータが経営者の事務作業を手助け、今までの大型機械化設備から遠ざかり、一頭あたりの生産性を上げるとともに、コストダウンを自然を生かした技術によって改良されていることです。私は、この考えかたに重点をおいて各研修機関に取り組んできました。最初に紹介したように私は三カ所で研修させていただきました。

(1) 十勝種畜牧場での研修

- ① 学科では酪農に関してのすべての情報を駆け足で充実したものを得ることができたこと。社会的や、経済、農政問題、技術の方では、経営から始め乳牛管理、それに関係する要素。それか

ら、現在研究され改良されようとしていること、そして酪農の将来性にとまなう問題点など、講義と見学によって学ぶことができました。

- ② 実地では、分娩牛から子牛、育成、生産牛をふくむ管理、テクニックの一つ一つを解明し手にとって体験させていただきました。
- ③ 資格等。自動車をのぞいて機関内の資格は受けさせていただき、合格することができました。下記のとおりです。

昭和58年10月	認定牛飼蹄師養成講習会（講義と実技だけ）
	丙種危険物取扱者試験（ペーパーテスト）
	2級農業機械士（講義、実習ならびペーパーテスト）
	ガス溶接技能講習会（ 同 上 ）
昭和58年11月	アーク “ （ 同 上 ）
昭和59年2月	家畜人工授精師養成講習会（ 同 上 ）

この6つの資格が私が18カ月の研修でかたちのある成果として残ったものです。

(2) 町村農場にて酪農実習

ここでは、5カ月にわたって、各牛舎担当の助手をやらせていただきました。理論的なものでなく、毎日の基礎作業の効率を身に付けることができました。牛のけつ洗いから糞尿処理、搾乳飼い受けや種付けの手伝いをおして、きめとまかな技術を教えていただきました。私にとって、この実習は、精神的労力についてまったく新しい体験を得ることができました。ここで初めて日本にいるのだと仕事の面で実感しました。お世話になって1カ月目には、十勝で得た豊富な情報だけの自信がいきずまり、前期の研修が時間つぶしだったように思えたものです。しかし、実習の後半では、作業効率はあまりあがりませんでしたが体力の方では、少し、よゆうも出てきました。もっと作業時間のロスを失くそうと思いつつ、あつというまに5カ月間が過ぎたように感じます。今、成果としてあげられるのは、新たな自身と酪農精神が少し芽ばえ、乳牛が今までより一歩近くから見えるようになったことです。この実習で評価したのは、私のような半人前に一つ一つの仕事の責任をもたせてそただいたことです。

(3) 宮崎種畜牧場での研修

ここでは、特に牛舎施設や飼料作物の視察とその解明に力を入れて勉強させていただきました。約15日間という短期間でしたが、あたたかい所の酪農情報にもとづいて15カ月間の研修をみなおし、ポリヴィアに適用できるような知識と技術についてまとめることができました。非常に限られた時間でしたが、沢山の人間とふれあうことができとても良かったです。

(まとめ)

18カ月間が過ぎた今、言えることは、帰国後に私独自の酪農経営をやっていく自信がついたことです。まだ未熟な決心にすぎませんが、今回得たものは、これから私の行動に酪農だけにこだ

ならず、あらゆる時に採用し、少しでも沢山の成果を上げ元気づけてくれるでしょう。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は、酪農だけにとどまらず、もっと広い範囲で農業について研修したい希望もありました。しかし、その分専攻の方を積極的にとりくんだので思い残すことはありません。

日本にくる前は、先輩のアドバイスや話をきいて、ある程度計画をたて（ポイント4）研修に期待をかけました。それに、新しい体験や、情報とともに問題や期待以上のことにぶつかるのは承知の上でした。私として願ったのはそれらの出来事から少しでも多くのメリットを吸収できるかということでした。今、18カ月の研修を終えて私が広い範囲で沢山の経験を得ることがなによりも、当初の計画を充実し、パーフェクトに近いものになった証拠だと確信しています。



十勝種畜牧場での実習

7. 合同研修会について

入国する時に、この18カ月間は休憩は、とらないと思っていたのですが、研修に力を入れる程、合同研修会などが待ちどおしかったです。その研修会が、お互いの交流をとおして、つかれや、なやみことから解放してくれました。又残りの研修生活に新たな、エネルギーを補給してくれました。特に私は人一倍さみしがりに、夏期研修に自から欠席したことは、大変残念でしたが後悔はしていません。その分、最終合同研修会に積極的に参加でき、今まで以上のメリットを手にかたく信じています。それに帰国後大きなはげみになることでしょう。

8. 本邦での生活状況

生活をしていく中で一番印象に残ったのは、教育機関や、生活水準にしても高く、条件的にもいいように見えますが、日常生活の会話が理想のコミュニケーションにあまりにも遠すぎることです。その点、私はボリヴィアが有利のように思えました。それにボリヴィアでは、生活のむりがなくオーバーヒートする可能性が低いようです。

具体的に生活は日本人にくらべ、あまりおとりませんでした。しかしボリヴィアの生活水準から見ればぜいたくなもので、ボリヴィアの人達を思うたびにがんばらなければ何回も自分にいいきかせたものです。ことばの方も日本の方と比べると約10年間の日本語学習がおくれている。私はもっと日本語を勉強すべきだったと今、つくづく思います。18カ月の生活が今では、朝日がさすような速さで過ぎたように感じます。日本で生活したメリットとして私自身ためし、はげしい、消費社会の中で体験できたことです。これによってわずかですが、私のパーソナルティも豊富になりま

した。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

第一につたえたいのは、研修制度のレベルアップには、日本語をマスターするよう要求することが大切だと思いました。ある程度のプレッシャをかけても本人のために非常にメリットになると今回の研修を見て思いました。

ごくあたりまえのことですが、後輩の方々に自分自身のためですから、現地での研修機関を実際に受けて、デメリットが多いと思ったらそのファクタを向上させることが一番大事なことだと私は強く感じました。日本では私達研修生にとって想像もつかないことが山ほどあります。

又、個人的にうぬぼれがちですが、わからないことやまよいごとがあったら、担当の先生や、友達に相談し、目標を新たにしてから、一つ一つの問題にとりくんでいくことが、私達から日本の方々へ感謝の気持ちとして、お返しできることではないでしょうか。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

(1) 専攻学科をとおして

当初の自分をふりかえって見るといかに無知であったことに、今つくづく思います。当初は、有機物と乳牛だけを考えていたのがもっと沢山のファクタや要素がつながっていることが研修でわかりました。酪農は有機物を主体に生産するのではなく牛乳を生産することによってその経営がなりたっていくわけです。牛乳そのものも、栄養価が非常に高いため、これからポリヴィアでももっと消費されるようになるでしょう。問題は、畜産でも、特に根気強い管理と技術が必要なことです。又経営していく中で広い知識や技術でもって新しい問題と取り組み、つねにバイオニア精神を生かすことが大切であると思います。この研修をとおして日本は、私に期待をはるかにこえる体験や知識を与えてくれました。帰国後も日系人らしい考え方が私自身に目だつでしょう。

(2) 人どうしのコミュニケーションから

人口がポリヴィアの10倍とあって日本では様々な人達に出会うことができ大変光栄で、これから私の生き方に参考になるでしょう。この沢山の出会いから感じたことは、日本の人達はとっても親切で、豊富な情報を持っていますが、視野や他の人を受け入れる心が一般的にかぎられているようでした。でも18カ月にわたって全国各地に限られた人数でしたが友達もでき、中では親しい交流が、各研修先で力ずけてくれました。この人とのふれあいは、よき心のたからとして、いつまでも大切にできたらと願っています。

(3) 仕事をとおして

ポリヴィアでは、外見だけで日本を自分の祖国でありながらエゴイストな国という印象を強く持っていたのですが、国内の問題をわずかながら理解できることによって日系人としての心の整理に役立ちました。それは、日本がポリヴィア以上の問題をかかえながら、戦後から根気強い努

力によって世界でも1・2位を争う技術国となったことです。日本に着いたころ、「日本は、せかせかして休むひまもない生活だ」などという発見をしました。が……今うらをかいてみれば、南米の習慣が身についた私には、自立心が弱すぎるように思えます。私達日系人がどの国へいっても有利なのは、日本がそれだけの実績でバックアップしてくれるからでしょう。その分日本人達に負担をかけないように頑張っていきたいと思っています。日本の方々に日系の一人として伝えたいのは、もう少しゆとりを持ち、もっと現実を見つめながらバランスのとれた理想的国造りが進められることです。これによって社会、オーバーヒート的問題の解決につながるのではないのでしょうか。



家畜人工受精の実習
(十勝種畜牧場)

<まとめ>

去年の4月からすぎさった時間帯が長くて短く感じられます。それは沢山の出来事が短期間にあったからだと思います。今、一番の心残りは、時間のロスが多かったことで、もっと計画をはっきりたて有効に使えば良かったと後悔しています。でも今日まで無事、大変満足した研修ができたことは、同期生やJICAの方々を始め沢山の人の協力があったからです。お陰さまで、自分にいろいろな決心ができたし、又、それによって自分に変化があったことを強く感じています。

具体的な計画として、私が移住地にもどったら、自分の経営を水準レベルに上げ安定経営に持ちこみ、それから確実に日本研修で身に付けさせていただいたすべてを実用化させたいと考えています。

こんど一年半ぶりにボリヴィアの土をふむのですが、この移動は大きな出発点になりそうです。それは今まで後継者でありながら、親につれられて移住したということで責任のがれをしていたものです。しかしあすからは、自分の海外移住として、もっと積極的に農業に取り組み、日本が生れ故郷であることをほこりをもって、育て親とも言えるボリヴィアも自分の国としてできるかぎりのことはやりとげたいと思っています。

帰国後私は、二つの国を母国とする理想の日系インターナショナルを目標に力のあるかぎり私達の研修に御協力くださった方々へ感謝の気持ちをもって一歩ずつ歩いていこうと思っています。

私は、農業をとおして世界中の平和社会につくしたいと願っています。日本も、もっと良くなるよう、お互い皆様とこれから頑張っていきましょう。

今回は、本当にありがとうございました。これから来る後輩達もよろしくお願いたします。

以上



親川 メリ子 (ボリヴィア オキナワ)

1. 研修機関
- (1) 前期
 - ① 名護市役所
 - ② 沖縄経理専門学校
 - (2) 後期
 - ① 宮国公認会計士事務所
 - ② コザ農業協同組合
 - ③ 国際女子研修センター

2. 研修期間 昭和58年5月～59年9月
3. 研修職種 経理事務、コンピューター
4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

私は、簿記、コンピューター、ソロバンその他時間があれば生花などを習いたいと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

6月13日、沖縄経理専門学校へ入学しました。学校では、すでに校長先生が私の為に一年コースのプログラムを組んで下さっており、そのプログラムに従って勉強させていただきました。最初は難しい漢字ばかりが教科書に出ていて、意味も理解できず、毎日の勉強に必死でした。時にはどうしてこんなに難しいのだろうと思ひ、自分の実力のなさにくやしくなり、涙が出てくるときもありました。でもせっかく素晴らしいチャンスをつかんで日本まで来たのだから、どんなにつらい事があっても最後まで、精一杯がんばっていくと決心した。こうして、日々が過ぎていく内に漢字も少しずつ読めるようになり、授業にもついていけるようになりました。友達も多くでき、今では一日一日が楽しく学べるようになりました。わからない所があると先生方や友達に教えてもらい、検定前は、クラスメートと放果後おそくまで残って補習をしました。又校長先生は、皆を激励したり、お腹がすくだろうと、ラーメンを出してくださいました。この激励のおかげで簿記二級、工業簿記一級に合格することが出来、うれしさでいっぱいです。つらかったけど頑張ったかいがあったと思います。

3月、校長先生の紹介で宮国公認会計士事務所で4か月間研修することになりました。そこでは種々の会社の監査につれていただいたり、帳簿の流れ、事務所ではコンピューターの扱い、ワープロ、財務、などのプログラム入力をまかされてきました。

7月に入って研修先がコザ農業協同組合に変わり、ここでは現金扱い、伝票式会計、農業簿記の流れの研修に入っています。そして後、半年研修期間を延長していただき、ぜひとも身につけたい

と思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は希望どおり研修先へ行くことができましたけれども、全く経理の経験がない為、学校へ通うことになりました。そして思っていた以上にたくさん学べる事が出来満足しています。



生け花実習 (国際女子研修センター)

7. 合同研修会について

指折り数えて、楽しみに待っていた日がやって来ました。6ヶ月ひきつっていた顔がニコリしています。お互いに助け合って来た仲間達と楽しく旅行することができました。

8. 本邦での生活状況

一年間、おじさんの家で下宿していましたが、後期から学校の近くにあるアパートに移りました。初めて1人、アパートでの自炊、風通しの悪い一室、孤独に淋しい時もつらい時もありましたけれど、今ではすっかり慣れました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからも、日本語の講習、又国際女子研修センターでの特別研修を続けてほしいと思います。

10. 所感 (帰国後の抱負を含め)

幼い頃からあこがれていた両親の祖国日本の文化、社会を学べると思うと夢と期待で胸がいっぱいでした。

経理専門学校では、それぞれ立派な先生方がそろっていて、この一年半の間経理だけではなく多くの事を学ぶことができました。最初は授業も難しく、理解も出来ない所が多くそのたび、夜おそくまで勉強して来ました。この繰り返しで私



にとっては、とてもきびしく、大変な苦しみでしたが精一杯努力しました。おかげ様で色々な面でプラスになったのではないかと思います。しかし、全部理解出来たわけではなく、ただ知識が格段と広がったことです。又実習も、たくさんの人に見守られながら楽しくやることができました。特別研修について、私達は国際女子研修センターで研修をすることになり、小南先生が私達の為みっしりスケジュールを組んで下さっており、3週間、短い期間でしたが色々学ぶことによって

多くの人と接することができ、又両親の祖国で、人のやさしい暖かさを改めて感じさせられました。今度帰国したら移住地の為に一生懸命頑張りたいと思います。

これまで見守って下さいました国際協力事業団を始め、学校の諸先生方に心から厚くお礼申し上げます。



近 藤 豊 (ボリヴィア サンファン)

1. 研修機関 (1) 前期 亀戸高等職業訓練校
(2) 後期 "オンラインアプリケーションシステムズ"
(株)
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月

3. 研修職種 コンピュータ (ソフトウェア)

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

当初、コンピュータに関する知識は、ほとんどなくただ単に、コンピュータのソフトウェアを学ぼうとしか考えていなく、研修内容などは、いっさい思い付く事さえ出来なかった私です。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

(前期) 58年4月～59年3月

学科 普通 社会, 体育

専門 プログラミング論, ハードウェア, 基礎数学, 経営管理Ⅰ, 経営管理Ⅱ, 数理計画法, システム設計, オペレーティングシステム, サービス プログラム, 安全衛生, アセンブラー, フォートラン, コボル, PL1/アルゴル

実技 基本 オペレーション, アセンブラー, フォートラン, コボル, PL1/アルゴル, サービス プログラム, システム設計, 安全衛生作業

応用 研究課題

(後期) 59年4月～59年9月

コボル/S オンライン プログラム, Vis プログラム, ファイル関係
ラン ファイル3, ラン グラフ3, ラン プラン3, ラン ワールド3

この仕事を勉強して、約一年半過ぎ去りましたが、頭の悪いせいか、勉強が不足なのかわかりませんが、自分で思った様にプログラムを作れず悩んでいる最中で有ります。

現在この業界は、世界の最先端を行くだけあって、技術の方もむずかしく、私も、ついて行けるのかと不安も抱いています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

現在色々勉強した後の研修計画、コンピュータについての知識がほとんどなかったことに気が付くだけです。

ただ、日本に来て学校の方で考えてくれるがままに勉強した感じで、初めの2ヶ月程は勉強の内容がほとんどわかりませんでした。次第にコンピュータがどうゆうものなのかわかってきて、それから色々研修計画などを考え始めたような気がします。



7. 合同研修会について

オーバーの様ですが、まず初めに言えるのは、合同研修会は、私達研修生全員にとって、長く辛い仕事の中の一時的休憩の様なものではなかったでしょうか。それもただの休憩ではなく自分達の祖国を離れ知らなかった国での生活の中で、色々あった事を語り合い又、慰め合う唯一の機会であったと思います。

又、事業団の方で開催してくれる見学旅行も、外国で育った私達にとっては、日本の景色、歴史に触れる最高の場であった事は、まちがい有りません。

8. 本邦での生活状況

来日し、初めの一ヶ月ほどはただ、生活面の事を考えるだけで何が何やらわからず過ぎた様な気がします。初めの三ヶ月は、下宿が見つからず横浜にあります海外移住センターから一時間半程かけて学校まで通いました。勉強の方も前の方にも書いたと思うのですが、初めの二ヶ月程理解に苦しみました。本当にこれで他の人達について行けるのかと思うと不安で胸が一杯で夜も眠れない日も多かった。しかし、6月に入り友人から下宿と言うより個人の家にお世話になる様に決まり、気持ちも落ち着いたせいなのか勉強の方も、だんだんと分り始め研修生活も楽しくなって来ました。一人暮らしの生活は、最初は空しくも感じましたが、家からの便りと親戚、友達からの暖かい支援があり頑張れた時も少なく有りません。今思えば、この一年半の月日は思っていたより短い日々でした。日本での経験は、将来、私の人生にとって大きなプラスになると思いますし、又、いい思い出にもなるでしょう。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

出来る事でしたら研修職種に合わせて研修期間をもう少し増し、しっかり勉強し、自分の物にしてほしい。勉強するにしても、やっぱり言葉の問題があると思いますので、日本へ来る前から、もっと日本語を勉強した方がいいのではないのでしょうか？。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

この素晴らしい、日本にて研修を受けられた事を心から感謝しています。

世界の最高地位の中に居る日本、又その中の最新技術のコンピュータを勉強出来て、今、最高に感激しています。しかし、最新の技術とあって勉強の方もむずかしく、なかなか自分の物に出来ずに悩んでいます。

現在の私の国では、まだこの業界はほとんどなく、実際日本で学んだものを活用出来るかどうかはわかりません。しかし一番問題なのはまだ、私の持っている力では、あまり役立つという可能性が有りません、ですから自分の物に出来るまで勉強したく思っている次第です。



伊 敷 勉（ボリヴィア オキナワ）

- | | |
|---------|--|
| 1. 研修機関 | (1) 前期 沖縄県農林水産部南部農業改良普及所
(2) 後期 (株)沖縄くみあい機械 |
| 2. 研修期間 | 昭和58年4月～59年9月 |
| 3. 研修職種 | (1) 前期 酪農、農業経営
(2) 後期 農業機械（農機具と自動車の整備） |

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

- (1) 農業経営
- (2) 和牛の肥育
- (3) 農機具と乗用車の整備

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

農業経営

- (1) 乳牛の飼育について
- (2) 和牛の肥育について
- (3) 農機具と乗用車の整備について

昭和58年5月11日～7月30日まで、南部農業改良普及所の紹介で知念村酪農団地で酪農経営について3ヶ月間研修を受けました。ここでは250頭の牛を4人で経営しており、そこに私が、お世話

になりました。夏場なのでサイレージ作り、草刈り（ローズグラス、パラグラス、イタリアン、メルケロン）などでとても忙しい毎日をご過ごしました。人工授精は、ボリヴィアでの農業高校で学びましたのでよく理解でき良い勉強になりました。

その後、大里村の当銘家で3ヶ月間和牛の肥育についての研修を受けました。まず、8月から10ヶ月の小牛を、飼料と乾草を朝・夕と与えDGは0.76で肥育日数は17から18ヶ月で約600から700Kgをこえるので出荷していました。

この農家では、乾草作りから、たい肥処理まで自作なので、とても良い経営法を見る事ができました。しかし、この方法をボリヴィアにもち帰っても、あまりにもちがった条件なので役立たないと思い、研修機関を変えました。

3ヶ月間農機具のヤンマー、三菱、カワサキなど、小型エンジン、草刈り機、防除機、トラクターの修理、整備について研修を受けました。

それから1ヶ月間佐賀県にある全農九州講習会で、農機具基礎講習と、ガス溶接の講習に参加させていただき、とてもよい勉強になりました。

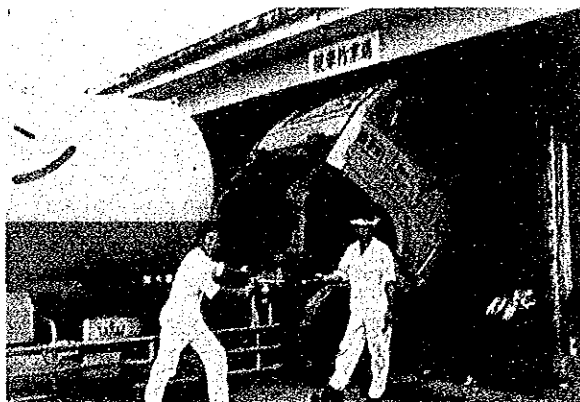
後期研修は、乗用車のピックアップ、大型トラックなどの整備を中心に研修しました。ここでは、ブレーキ回りからミッション、レフ、エンジン、電気回りなどの調整や修理などについて研修しました。

成果：農機具では、ボリヴィアにもあるフォードやファーガソン、インターのトラクターの修理の勉強ができたので良かったと思います。

車の方では、ボリヴィアでは日本車も多いので帰国後、大変役にたつと思います。ならびに整備免許をとるため要求される実施作業証明書となる研修終了書をとることもできました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画は農業経営でした、初めての6ヶ月間にわたり農家で研修をし、思っていたよりは、日本とボリヴィアは農地および経済的違いが大きいと思いました。しかし農機具の修理については、日本とさほどちがわないと思い、機械の修理・整備について研修をすることにしました。その研修では思っていた以上に勉強することができました。しかし、もっともっと知識をつけるために、研修期間を延長させて頂き、できれば整備士の3級免状をとって行きたいと思っています。

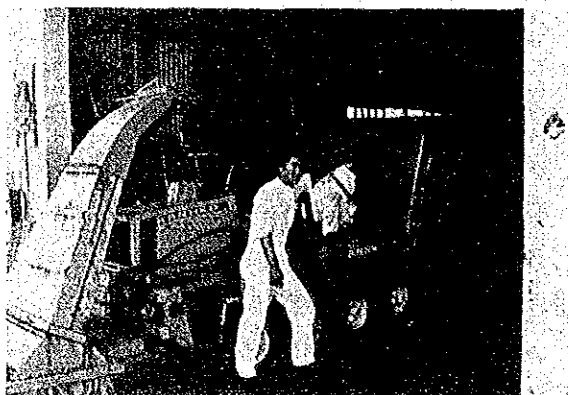


7. 合同研修会について

何回か行われた合同研修会は、同じ研修生どうし、色々な相談事ができ、私にとって大変励みになりました。また、研修旅行では、多くの日本の名勝・文化・史跡等を知る事ができましたので、とても良い勉強になりました。

8. 本邦での生活状況

初めは農家へ住み込みだったため、不自由なく生活ができました。その後は、ほとんどアパート住まいだったためいろいろ困った事がありました。初めは安いアパートがすぐに見つからず、敷金生活するのに必要な品物を購入するのに金銭的に困りました。食事は自炊となり無経験な僕にとって大へん困りましたが、良い経験になりました。また親戚の方々に会う事ができました。日本人や外国人の友達ができ、とても楽しい時を過ごすことが出来ました。



9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

現地で日本への応募者ができるだけ求めている内容を多く学べるように先輩方や国際協力事業団の方々から情報が得られると良いと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

ボリビアの国の、農業経営や技術はあまり進んでいないため当時のボリビア国でのインフレに立ち向う事ができなかったと思っていました。前進国である日本で使われている技術を取り入れる事が大切ではないかと思いました。実際日本で研修してみたところ、農地の面積、及び経済的のちがいを大きく感じました。しかし、農機具は日本とあまり変わらないと思い、主に農機具や車の整備について研修を行いました。この研修ではいろいろ学ぶ事が多く、もっと知識を深めたいと思い研修期間を10月から6ヶ月間延長させて頂きもっと勉強したいと思っています。国へ帰ってから自分の経験を生じて移住地で頑張っていきたいと思っています。

これらの研修ができるように、国際協力事業団の方々や、研修先のみなさまにごめいわくをおかけしましたので大変申しわけないと思っています。

全体的に良い研修ができたことを感謝しています。国際協力事業団及び研修先のみなさんに大変お世話になりました。どうもありがとうございました。



嘉味田 ホセ (アルゼンティン ブエノス・アイレス)

- 1. 研修機関 (1) 前期 沖縄県農業試験場園芸支場花卉研究室
(1) 後期 (有) 高木農園
- 2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月

3. 研修職種 花卉園芸

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

第13回生移住者子弟研修生として、ブエノス・アイレス支部に応募した時、研修計画は、まず両親の故郷を知る事は小さい時からの夢でした。日本語を学ぶこと、それから日本の農業に関した、進んだ技術や経営などを学ぶ大きな希望として考えました。又私の家では、現在、切花栽培を行っているので、変わった、鉢物栽培を学ぼうとし、又、新しい物を取り入れようとして洋ランを中心に勉強をする事に決めました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

一年の前期研修は、沖縄県農業試験場園芸支場花卉研究室で研修を受けました。この試験場ではいろいろと学び、今まで目で見ていた花を、実際に栽培方法や各種類、品種を先生方に教わり、いろんな試験を行なうことが出来ました。

花卉に関する試験を行ないましたのは、グラジオラスの球根栽培技術に関する試験。木子の発芽了措、種期決定、貯蔵方法、本作り、植付時期、などの試験を行ないました。

バラの栽培の方は、挿木時期、栽培密度、被覆資材の効果に関する試験、スターチスの苗冷蔵の効果、品種選定に関する試験を行ない、キクの二度切り栽培技術確立、連作障害。水分管理に関する試験、サンタンカの土壤水分調節、土壌、PH、保温、管理、遮光方法による、開花調節、電照期に関する試験など行ないました。あらゆる栽培に必要な点があり、実際に行なう事が出来、私にとっては、すごくプラスになりました。

又、試験場から農家へ短い期間の実施研修に行き農家の問題点、生産技術、農業経営、切花の出荷方法などを、手伝いながら日本の農家の栽培を体験出来て、大変勉強になりました。

農業試験場の花卉研究室の室長さんと話し合っ、私はラン栽培についての希望を中心とした研修をさせていただきました。ここでは、ランの種類、品種、



植込み材料、澗水管理、温度管理、湿度管理、施肥のやり方、繁殖技術についての試験を行ない、期間的に続くのは残念ながら出来ませんでした。でも後期研修での基礎的知識を学ぶ事は出来たと思います。

後期研修は、千葉県の高木ナーセリーの農場で、お世話になる事になりました。この農園では、ランを中心とした、組織培養をはじめ、生産農家への苗販売、市場やデパートへの出荷、外国との取り引きも頻繁に行なっています。

この農場では、実際にランの一般管理を行なう事が出来、試験場での基礎知識をより具体的にすることが出来ました。又、私が目的にしていた組織培養も学ぶ事が出来ました。これは無菌状態で繁殖を行なう方法を組織培養と呼ばれ、初めに植物が必要な栄養分の培地を作り、プロトコームの増殖、定植、又種子の無菌発芽の方法を行ない、鉢出しまでの一通りについて学ぶ事が出来ました。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私の当初の計画は鉢物栽培、(草花、観葉物)を目的として来た。でも全部学ぶ事は不可能であり、アルゼンティンでは、草花、観葉などは、一般にも栽培しており、帰国しても学べない物を身につけて帰りたいと思っていました。ランは、自分の国でも、そんなに栽培していませんので、ランを中心にして栽培技術を勉強することにしました。

7. 合同研修会について

私達、研修生にとっては、合同研修会は、非常に大切だと思います。日本に来た時、一人ではなく、すぐ皆人と友達になり、先輩達からの助言や個人体験などを聞かされ、心強くなりました。又皆人と会うのは一つの楽しみであり、その時は、生活状況など意見交換し合ったり、時には悩みを話したり、聞いたりしてもらい、その中で友情が深まりました。

研修旅行で日本の、文化、歴史なども学ぶ事が出来、お寺、神社の古い建物の見学も出来ました。

8. 本邦での生活状況

この研修での一番不安は、やはり習慣の違った生活についていけるかどうかでした。最初の1ヶ月は移住センターでの日本語講習や習慣などを学ぶことから始まりました。

前期研修は、沖縄県で一人暮らしに慣れていない生活を始める様になってから、良かった事、困った事、楽しい時や辛い日等、沢山有りました。又料理を作るのが苦手なので失敗が多いためほとんど外食になりました。沖縄支部より二回、島内見学会があり、何回も事業団のパーティにも参加

させていただき、とても楽しかった。ほかに、沖縄那覇市長、沖縄ロータリークラブ、沖縄県庁、県知事、県農試験場等からも招待があり、他の研修生、留学生達と交流する事も出来、ほんとうに感謝しております。

後期研修は、千葉県の高木ナーセリーでお世話になりました。ここでの生活は、沖縄県と違って研修生のための寮に住み、社長宅で、他の研修生と一緒に食事をいただく様になりました。

ここでの実習は、日の出と共に始まり、日が沈むと一日が終るまで開拓者の様な日々を過ごしました。私にとっては少しきびしかったけれども、相手が植物であり、管理の上での心構えの大切さを教えられました。でもきびしい事ばかりでなく、ここで働く人達とすごく親しくなり、休日には映画を見に行ったり、ドライブに連れて行ってもらったりし、楽しませていただきました。又、同じ実習で来ている友達とは、同年輩ぐらいな人が何人かいたので気がねなく、付き合う事が出来食事後に、色々な話題で、夜おそくまで語り合う事がしばしばでした。そんな事で同世代の日本人が、何を考えているとか、どう言う事が日本ではやっているか、うわべだけの知識ではなく本当の生の知識が得られた様な気がします。



自分は、アルゼンティンに帰ってラン栽培をしようと思っているのですが、この一年半の研修は、自分にとって大変、有意義で日本に来る前の自分と比べ、一つ何か「自信」がついた様な気がします。

最後になりましたが、千葉での、研修では高木浩二郎社長をはじめ、会社の皆さんに大変親切にさせていただき、とても感謝しています。このお礼は、アルゼンティンに帰って、ここで勉強して来た事を生かして一生懸命働くことだと考えています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私が日本に来る前に、もっといろんな情報を与えてもらえたら、もっとくわしい計画を立てる事が出来たと思います。今後の研修生に対しては、前の先輩達の個人体験のレポートや、前期・後期のスケジュール等に関した、くわしい情報を与えてもらえば、もっと理想に近い研修が出来ると思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

まもなくこの研修も終了ですが、ふり返って見ると、この一年半はすべてが自分にとって初めての体験でした。最初のころは、見る物、聞く事、すべてがめずらしいので、落ちつかない日々を過

しましたが、自分のペースに戻り、色々考える様にでき、日本の習慣に合わせるのにそんなに時間はかかりませんでした。それは、試験場の先生はじめ、友達、いろいろ自分の事を理解していただいたおかげだと思います。

こうして、様々な事を学びながら、経験をし研修が終了しましたが、この間非常に早く感じられました。アルゼンティンへ帰ってからは、もちろん、花卉園芸を続けます。日本と言う国は、経済的に一番安定し、農業経営、栽培にしても、数年も自分の国より発達しています。アルゼンティンは、現在、切花をしています。帰ったら日本で学んだ技術を取り入れながら、亜国に住んでいる日系人達にも、日本の文化、歴史、いろいろな面でのすばらしさを伝えたいと思います。又、現在の二世、三世達は、日本語を話すのは、だんだん少なくなっています。私も、こちらに来て始めて知りましたが、日本人の血が流れているのを忘れないよう、日本語と言う言葉がどんなに大事であるか皆んなにも日本語を進める様に努力したいと思います。

研修期間中いろんな人々と知り合い、友達も沢山出来、皆さんから親切にしてもらいました。人生の中でのとてもいい思い出に残るでしょう。ほんとうに有りがとうございます。

最後になりましたが、初めにこの機会を与えて下さった国際協力事業団の方々、沖縄県農業試験場、又、千葉県の高木浩二郎社長、その他の皆様方に心から感謝申し上げます。

曾 根 睦 (ドミニカ サント・ドミンゴ)



1. 研修機関 (1) 前期 ① 静岡電機工業協
② 東芝静岡家電サービス
③ ソニーサービスセンター
④ 松下電器映像技術院
- (2) 後期 ① 京セラ協
② 愛知電子協

2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 家庭電器製品修理、ソーラーエネルギー、CATV
4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)
1. 家庭電器製品
VTR、ビデオカメラ、オーディオ等修理技術
2. CATV
CATVシステム概要 単体機器修理技術
CATVセキュリティのシステム技術

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

(1) 家庭電器製品

期間：58年4月30日～59年2月30日

内容：VHS及びベータマックスのVTRカメラの修理方法について教わった後実際に修理をして実習も行った。比較的簡単な内容から高度な内容まで、広く修得した。例えばカメラの修理の中でテープの切断時の修理からコントロールシステム回路の故障の修理に至るまで下記の3社で修得した。

- ① 東芝静岡家電サービス 58年6月1日～8月30日
- ② 松下電器映像技術学院 58年9月1日～12月30日
- ③ ソニーサービスセンター 59年1月3日～2月28日

(2) ソーラーエネルギー（変更）

期間：59年5月6日～59年7月30日

内容：このテーマは最初は無かったが、オーディオとチェンジした。オーディオについてはあまり適切な研修先がなかったため京セラ㈱に研修に行った。主として太陽電池システム太陽熱システムの2種類について修得した。

例えば、太陽電池では製造及び取付方法と発電量の計算方法を修得した。その他太陽電池の使い途の実状として時計、計算器、宇宙衛生、などの説明を受けた。

(3) CATV

期間：59年8月6日～59年9月21日

内容：CATVのシステム設計の概要システムの修理、施行方法及びアンプ等単体機器の構造、修理を修得した。その他に修理用測定器類の操作方法と必要機器の選定を愛知電子㈱で教わった。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

出発前に考えていた事と実際の研修内容は期待していた以上に成果が得られ満足している。特に、静岡電気工業㈱の骨折りにより研修先を希望通りに探してもらえた。尚すでに修得済技術の研修先は断わるなどして希望通り研修が受けられた。

これにより一歩大きく前進した事を確信します。

7. 合同研修会について

ボリヴィア、ブラジル、パラグアイ、アルゼンティン、ペルー、各国からの研修生と共にそれぞれの、研修プロジェクトを語り合い親睦を深めた。

短期間の研修でもあり私も時間を無駄にせずより多く学ぶ決心をした。

8. 本邦での生活状況

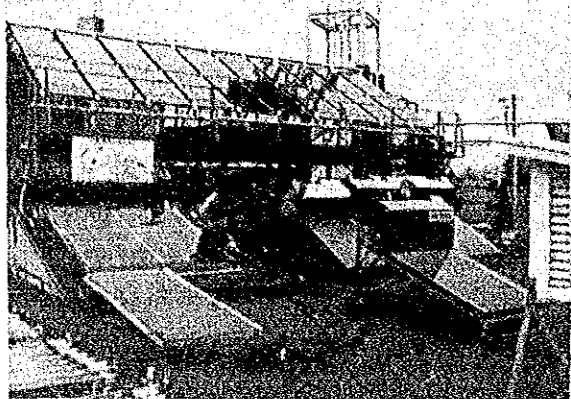
初めて研修に行った会社は、静岡東芝家電サービス、次はソニーサービスセンターで、静岡電機工業の社員寮から自転車を通った。丁度冬の寒い期間だったので大変つらい思いをした。食事は静岡電機の寮で世話になった。松下電器、京セラでは、同じ様に社員寮で生活をし、愛知電子の名古屋では個人の家で世話になり自転車で15分程の通勤をした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

特別に申し上げることはありません。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本に来る前には、日本の文化、習慣等は、本その他等により多少解っていたつもりでしたけれど実際に来て見るとなかなか色々な日本での生活習慣になれることが出来なかった。例えば、家に入る時靴を脱ぐことなどで、それは昔の習慣、今では西洋風化されてそのまま出入出来るものと思っていた。最初の頃はそれを



大変面倒に感じるが多かったが、今ではそれをとてもいい生活習慣だと思う様になった。又、日本人の職場ではすべて順序立った方式に乗った仕事をし、上に立つ人は従業員に適切な思いやりのある指導をし、コミュニケーションの場所での交流はとてもいい雰囲気であった。それから各地を廻り帰国後何か役に立つと思うようなデータを色々集めた。帰ってから友人達と話し合いドミニカの人達のためになる様なことを考えたいと思っている。

日本での生活は、四季の気温の変化、台風、地震等自然現象の色々を体験してその時々での生活の仕方、方法を考えると非常にむずかしく面倒な点があると思った。

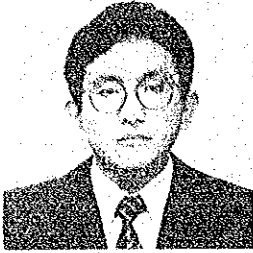
私の以前から抱えている考えは、ドミニカに帰って最初にやろうと思っていること、それはエレクトロニクスサービスの会社を作ることです。仕事の内容はVTR、ビデオカメラ、オーディオ機器、CATV等々将来は電器製品を製作するという考えを持っている。日本で学んだ技術を生かしてドミニカで一番といわれるサービスセンターにするために頑張ります。帰国後は現地の日本人と協同で仕事をしていく予定です。日本での会社の組織、構成、規則を見習って行えば必ず出来る。

私には、それだけの事を成し遂げる自信がある。

此の研修を終るに当って、今迄各地で御世話になったそれぞれの会社関係の人達、友人等に感謝の気持でいっぱいでありました。ほんとうにありがとうございました。

国際協力事業団の皆様、ありがとうございました。深く深くお礼申し上げます。

森 岡 正 行 (ペルー リマ)



1. 研修機関 (1) 前期 東京銀行新宿支店 (外国為替課)
東京銀行外為センター
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年5月～59年9月

3. 研修職種 銀行外国為替業務

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

講義 送金為替取引、為替手形、貿易取引条件、信用状統一規則と船積書類

実習 送金事務、輸入事務、輸出事務

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

58年4月4日に東京につきまして、第13回の子弟研修生と一緒に横浜の海外移住センターで一ヶ月間日本語の講義を受けました。その間日本の文化、歴史、地理など、先生達から指導をいただき大変興味をもちました。

前期の5月9日より東京銀行新宿支店で外国為替の研修が始まりました。まず外国送金業務の説明をいただき、内容は外国送金取引、仕向送金業務、両替業務でした。

しかし、最初あまり理解出来ずに心配しました。特に電話での対応には苦勞しました。銀行では毎日8:40から5:30まで仕事をしました。しかし忙しい時には残業も有りました。

8月からの2ヶ月間は輸入課で勉強し、まず信用状の発行 (開設) と決済の業務を教えていただきました。ペルーでは同じ仕事をやりましたので、自信をもっていました。仕事の内容は以下のとおりです。

(1) 信用状の発行 (開設) :

請求書類、商業信用状約定書、輸入信用状開設依頼書、輸入借入申込書、

信用状の発行電信あるいは郵便、信用状の条件変更

(2) 信用状の決済 :

勘定起票と手数料、船積書類の点検、船積書類の到着通知と決済

- 輸入ユーザンス：－ シッパーズ ユーザンス方式
- － 本邦ローン方式
 - － アクセプトタンス方式
 - － リファイナンス方式
 - － B/C ディスカウント方式

又8月には、東京銀行リサーチ インターナショナルで11日間の外国為替総合講座を受けました。

そして11月から4月まで、東京銀行外為センターで外国為替の実務につきました。内容については：

- ・ 為替管理法と貿易外取引
- ・ 信用状統一規則
- ・ 荷為替信用状と手形、書類の点検表
- ・ 輸出為替取引、以上のとおりです。



後期研修は5月から、東京銀行新宿支店に戻り、今回は輸出実務をとりました。内容については：

- ・ 信用状付輸出為替の買取
- ・ 信用状なし輸出為替の買取
- ・ 船荷証券のチェックング
- ・ 貨物海上保険証券のチェックング
- ・ 輸出船積書類ディスクレの照会、以上のとおりです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

私の研修内容としては全般的に最初の計画通りに進んだと思います。そして受け入れてくださった東京銀行は親切でいろいろな研修が出来、又、さまざまな人に会う事が出来て本当にうれしく感謝しています。

7. 合同研修会について

合同研修会については、仲間達や先輩達と話し合うことによって、日本の文化についてさらにいっそう学ぶ事ができ、又研修旅行も非常に楽しいものでした。

本当に心から、あつくお礼申し上げます。

8. 本邦での生活状況

日本での生活は、とても楽しいものでした。東京銀行の寮に入れて頂いて非常によかったです。まず管理人の方々から、同寮の人々まで、みんなに親切にいただきました。又、整備もよく、食事もおいしくて、部屋も一人制でプライバシーもたもてましたし、本当に満足でした。

毎朝6:40に起きて、着替えしながら朝食し、出かけるのは7:35でした。寮から新宿駅までだいたい1時間かかりました。はじめてラッシュ・アワーの時間に電車に乗った時には本当に信じられない気持ちでした。人は多くてごみごみしており厭になりました。しかしこの状態が毎日続くにつれいつのまにか慣れていました。



休みの日には、東京銀行の丸子クラブで、さまざまなスポーツをやりました。テニス、水泳又スキークラブにも入っており、冬にはスキーもやり、夏は水上スキーとテニスで非常に楽しかったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の子弟研修生に対しても、日本語の不自由な人には一ヶ月間の講習を受けさせていただきたいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

東京銀行でいろいろ学んだ事を生かす、すなわち東京銀行リマ支店に就職し、ペルーと日本の架け橋となることこそ、私に与えられた使命だと感じています。

国際協力事業団の方々、又東京銀行の皆様には長い間大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

東恩納 マリア・エレナ
(ペルー リマ)



1. 研修機関 (1) 前期 沖縄県具志川市教育委員会「すこやか」保育園
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月

3. 研修職種 幼児教育

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

テーマ：日本の幼児教育

研修計画

- (1) 日本の幼児教育の概要を勉強すること。

- (2) 日本の急激な発展と幼児教育
- (3) 人間の基礎をつくる幼児教育
- (4) 保育所運営
- (5) 日本語を習うこと。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

(1) 58年4月：横浜海外移住センターで日本語の講習。

(2) 58年5月～12月

59年2月～8月

具志川市「すこやか」保育園にて実習。

保育園では8時半から4時まで実習を受けて、5時～6時までは、日本語の塾へ通いました。

その他、週に2回ピアノの教室にも行っていました。

(3) 59年1月：天願幼稚園

(4) 59年2月：兼原幼稚園

具志川市立の幼稚園の方でも2ヶ月間実習させて頂きました。

(5) 59年5月29日～6月26日：

琉球大学で児童心理学講義。

私はペルーで心理学の勉強をやっていたので、日本の心理学の内容を少々調べたいと思ったので、琉大で心理学者の石川清治先生の講義を受けました。

(6) 59年9月4日～22日

国際女子研修センターで特別研修会。

3週間のハードなスケジュールであったけれど非常に貴重な期間を過ごしました。日本に来て日本の文化の代表である茶道や生花を少しでも身に付けて、そして歌舞伎や薪能も観賞できて、本当に素晴らしい経験になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を

比較して

日本に着いた当時、上記した計画をできる限り実現させようと思いました。

1年と3ヶ月の実習をさせて頂いてとてもいい研修ができました。でも実習だけでは完全な研修ではないので理論的な勉強にも触れる必要もあると思って、後、5ヶ月間研修期間を延長させて頂きたいと思います。



7. 合同研修会について

1年半の研修期間で非常に楽しかったことは、合同研修会でした。意見や話を交わしたり、そして、研修旅行で日本のさまざまな景色を見ることができ、とても良かったと思います。

8. 本邦での生活状況

研修地である沖縄で、親戚の家でお世話になり、おかげで生活面ではあまり困まらなかった。ただ、最初の頃は私の不十分な日本語の為、色々な失敗をしました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

別にありません。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

1年半の月日があっという間に過ぎて、研修に対して反省すると、色々な事が頭に浮ぶ。でも全体的に言えば期待以上の経験だったと思います。

保育園においては、先生方の御指導のおかげで当初の不安も忘れ、毎日の実習に努めました。実際に園の生活に接して、育児の重要性を感じました。園では、幼児の心身の調和的発達を發揮するため、

さまざまな方法を用い、表現活動をとおして豊かな創造性を養い、あらゆる面で恵まれた教育環境で発育していく子供達と接触して非常にいい勉強になりました。

日本に来る前、保育所を開く準備中にこの好機を得たことを本当に良かったと思います。ペルーの現状は政治や経済等いろいろな事情で一進一退の状況ですけど、帰ったら保育所を開いて幼児教育に専念したいと思います。

この素晴らしい機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、沖縄県具志川市教育委員会の皆様、「すこやか」保育園の先生方、色々お世話になって心から感謝を申し上げます。



研修総括報告書

(第14回生 6カ月コース)

山 田 紀 行

大 貫 光 春

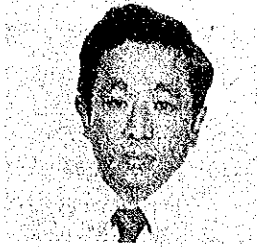
木 村 マリオ

山 口 晃

研修総括報告書

山田紀行 (アルゼンティン

ガルアペー)



1. 研修機関 広島県果樹試験場
2. 研修期間 1984年4月～9月
3. 研修職種 果樹栽培 (柑橘, モモ)

4. 当初の研修計画

- (1) 柑橘栽培：日本で行なわれている樹体管理，果実管理，土壌肥培管理，病害虫防除等基本技術の研修。
- (2) モモ栽培：日本のモモの基本栽培技術を学ぶことと，本来温帯の果樹であるモモを暖地で栽培するとき生じる休眠打破，病害虫，樹勢制御等の問題の研究。
- (3) 果樹生産組織：共同選果体制，流通技術の視察調査。

5. 研修概要

研修先の広島県果樹試験場で作成していただいたカリキュラムに従い次の内容の研修を行いました。

(1) 柑橘栽培

整枝剪定：初木の整枝剪定，結果樹の整枝剪定，樹形改造など

高接ぎ：高接ぎによる品種更新，方法と管理など。

摘果：摘果の効果，荒摘果，仕上げ摘果，樹上選果など

薬剤摘果：摘果剤の使用法と効果，新薬の試験など。

除草剤：除草剤の種類，使い方など

樹相診断：樹相診断の要素，樹相と果実の品種

ハウスミカンの管理，被覆加湿の開始時期，温度水管理，剪定，肥培管理など。

(2) モモ栽培

モモの人工授粉：摘らい，花粉採取，授粉方法など。

高接ぎ：高接ぎによる品種更新方法と管理など

摘果：摘果の時期と程度

袋かけ：袋の種類，時期と方法

枝管理：新梢の誘引，捻枝，夏季剪定

収穫：熟期の判定と収穫の方法

わい化栽培：わい性台木，共台木利用のわい化技術。

(3) 共通技術

果樹の栄養診断

果樹の病害虫の診断、発生子察と防除

(4) 視察調査

大分県農林水産常緑果樹農業研修所で大形機械化体系について

熊本県河内町西山農場で経営実例

長崎県果樹試験場、暖地柑橘品種

長崎県多良見町農業協同組合で、暖地カンキツ産地

岡山県山陽町農協、モモ共同選果場

香川県土麻果樹共業組合でモモ無袋栽培モデル圃地

香川県農業試験場府中分場でモモネット被覆栽培

香川県観音寺農協、柑橘産地

愛媛県果樹試験場、ハウスミカン産地

愛媛県八幡浜市：真穴の早生みかん産地

和歌山県果樹園芸試験場：多雨地帯の柑橘栽培

静岡県三ヶ日農協：カンキツ産地、共同選果、体制。

広島県佐伯町浅原、横山ブドウ園で観光即売果樹園

世羅郡世羅町、幸水農園、生産組織と流通戦略

三次市酒屋町、ぶどう生産圃地

(5) 当試験場外で次の研修を行いました。

広島県果樹試験場三原柑橘試験地で柑橘ウイルス病の診断、検定、対策について

岡山大学農学部でモモのわい化栽培、夏季剪定について

<成果>

果樹試験場でモモ柑橘栽培の基本技術を学び、またそれらの技術をうらずける多くの研究者、資料、文献を集めることが出来ました。また、県内、県外の果樹産地の視察調査を行ない、モモ、柑橘栽培についての認識を深めると同時に、生産組織、流通関係者の話を聞くことが出来たいへん勉強になりました。

6. 当初の計画と実際の研修内容と比較して

6ヶ月と短い研修期間でしたが受け入れがわの広島県果樹試験場に私の立場をよく理解していただき、また、JICAの御支援により当初の計画以上の成果を上げることができたことを関係者の



皆様方に心より深く感謝致します。

7. 合同研修について

私たち6ヶ月研修の場合、合同研修会に参加する機会がありませんでしたが、研修生間の情報交換、交流の場としてよい事だと思います。私たち6ヶ月研修では、来日3ヶ月目くらいに一度合同研修会が必要だと思います。

8. 本邦での生活状況

6ヶ月間試験場内にある研修館で、農業者大学校安美津分校の学生3人と共同生活をしました。寮は設備がよく食堂もあり食事にも不満はありませんでした。



研修旅行、日光・華嚴の滝

始めから言葉の問題は無かったが今までの生活習慣の違いで、始めは少しとまどいましたが思ったより早くこちらの生活に慣れることが出来ました。

果樹試験場、普及所や農業者大学校の皆さんに親切にいただきいろいろな面で不便を感じたことはありません。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言および要望事項

今後、1人でも多くの方が日本で学べるよう末長くこの制度を続けて下さるようお願い致します。

10. 所感

この研修会を通じて短期間でありながら多くの人たちに出会うことが出来、技術の面だけでなくいろいろな考え方、生き方について学ぶことが出来たことを心より感謝しております。

この研修中教えていただいた事柄については、帰国後も十分研究して、ミシオネス州の果樹産業の発展に努力して関係者の皆様の御厚意に報いたいと思いますので今後ともよろしく御指導のほどお願いします。



大貫光春(ブラジルトメアス)

1. 研修機関 前期 山形県立上山農業高等学校
2. 研修期間 昭和59年4月～9月
3. 研修職種 農業経営
4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

農業経営，農業簿記，現代社会，国語 I，農業実習，諸学校行事（ジベレリン処理実習，田植実習，稲刈実習，クラスマッチ，部活動）

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

農業経営 ① 畑作関係（野菜，花卉栽培中心）

② 農業機械化（畑作）の問題点について

農業簿記 ① 財産，資産，負債，決算

② 仕訳帳，総勘定元帳

③ 簿記記入実践

④ 取引き勘定

⑤ 郵便，銀行の口座，小切手

現代社会 ① 私達の生活と企業の自由競争

国語 I ① 現代文

農業実習 ① 稲作の諸管理実習

② 野菜（ナス，トマト，タマネギ，スイカ等）

③ 花卉の栽培

④ 機械（トラクター）の操作

緑の学園への参加

諸学校行事への参加

① ブドージベレリン処理実習（2日間）

② 学校田田植実習

③ クラスマッチ（体育スポーツ）

④ 学校田稲刈実習（1日）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して



当初計画は「農業経営」に関する学習以外にも前記した内容の学習ができ，大変勉強になりました。

日本の高校生との交流，高校に於ける学習，学校生活の全般について体験する事ができました事はすばらしい成果でした。

7. 合同研修会について

もっと日本語について学ぶ時間がほしかった。色々の点で浅学なために不便を感じ、これが又生活全般についてのプレーキになったのが残念だった。

しかし、先輩達に会って失敗談や日本での生活についてアドバイスをいただき大変参考になりました。

8. 本邦での生活状況

午前7時起床、バスにのり8時半頃登校する。私の日課表でしたが、1日5～6時間の授業に参加、放課後は農場当番実習やクラブ活動に参加、5時頃下校、平均的な1日のスケジュールはこのような流れでした。研究機関である上山農業高校は地域に根ざした農業自営者を育てる高校なので、農業に関する学校行事も多く生徒、先生共々和気藹藹の中で実施されるのでとてもみやすい学校でした。

又、研修地である山形県は私の父母の郷里でもあり、その点日本の農村、農家生活についても充分体験でき、この事からも大変有意義な研修期間であった。接する人すべて心温かい地区、郷土山形の人々本当に感謝の言葉あるのみです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- (1) 可能なかぎり多数の研修生を受け入れてください。
- (2) 研修生への事前研修をもっと強化していただきたい。例えば、渉外センターでの日本語指導や日本の生活、風土についての指導は特に強化していただきたい。
- (3) 各国から来ている日本への研修生同志の話し合いの場を国際交流の立場から多くもっていただきたい。

10. 所感

私は日本で生まれ、小学1年まで日本で育ったものの日本についてはほとんど頭脳にはのこっていませんでした。しかし祖母の生まれ、生活している国日本については心の郷里としてなつかしく思っていました。父母から聞く日本とも異っていました。近代的で物質にめぐまれている日本、この日本に来て遠く私の国ブラジルをあらゆる面で客観的にみる事ができました。文化、生活、産業特に農業経営、色々の点で違いがあり、それだけに学ぶ内容も多かったと思います。

今後ブラジルに帰り、良い点ほど少し我が家の農業経営改善に、又地域農村の発展のために取り入れていきたいと考



えています。

日本の高校はブラジルにくらべ施設設備は、はるかに充実しており、このような学校で学べる日本の学生がうらやましく思いました。私もこのような学校でもっと多くさんの事を学びたいと考えています。

学校外の生活においてもたくさんの人々に温かいアドバイスを受け、外国人の私にとって何不自由なく、この6ヶ月の研修を続ける事ができました。

特に上山農業高等学校の校長先生初め諸先生方からは一方ならぬ御指導、はげましを受け心から厚く感謝致します。

私にとって、この研修は生涯に残る思い出の日々です。大切にして頑張っていきます。

(帰国後の抱負)

私は、これまでもブラジルで農業経営者として生活をしてきました。帰国後は次のような事について努力していきたいと考えています。

- ① 経営内容をもっと集約的にもっていく。
- ② 研修内容を先づトメアス農友会の会員に教えていく。
- ③ トメアス農友会の若い力を結集し、リーダーマンとしての発展に努力していく。
- ④ 日本農業の共同化・協力体制・相互扶助の精神を取り入れ、トメアス農協を中核にした強力な営農集団・地域作りに努力していきたい。
- ⑤ 研修で学んだ日本の農業経営法・農業簿記のつけ方などのすぐれた方法を、これからの私の家の農業経営に取り入れ改善に取りくむとともに、地域の農民の範となるような経営内容にしていく。
- ⑥ 研修期間中色々御世話いただいた人々や若い上山農業高校と共に学んだ生徒達とこれからも長く交流をもちながら広くは、山形とトメアスの友好を更に深いものにするため努力していきたい。



木村 マリオ (ブラジル パストス)

1. 研修機関 群馬県蚕業試験場
2. 研修期間 昭和59年4月～9月
3. 研修職種 養蚕一般
4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

蚕種製造保護

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

4月には蚕種製造保護をおこなうにあたり基礎となる微粒子病の検査法、卵解剖の練習をおこなうとともに蚕具類、蚕室等の消毒法について学びました。

5月には主に催青試験（越年蚕種を用いて温度について）と原蚕の飼育試験を桑葉育と人工飼料育でおこなった。

6月には主に蚕種製造、即浸種の人工ふ化と保護法、および冷蔵浸酸種の浸酸前の冷蔵方法について試験をおこなった。

7月には主に即浸種の催青試験と冷浸種の人工ふ化試験およびホルモン添食の試験をおこなった。

8月には栽桑、育蚕、人工飼料および蚕桑病理の研修も受けました。

9月には晩秋蚕期における原蚕の飼育試験と冷蔵浸酸種の人工ふ化試験をおこない、また蚕種製造業者の見学をしました。上記に示した研修中の試験結果の一部を下記に示すと次の通りである。

催青温害が化小生および虫繭質に及ぼす影響

（第1表）催青温度と休眠卵蛾歩合

品 種	催青温度	休眠卵蛾歩合
錦 秋	20℃	94%
	25℃	100%
鐘 和	20℃	22%
	25℃	100%

（第2表）上簇時期と休眠卵蛾歩合

品 種	上簇時期	休眠卵蛾歩合
錦 秋	若上げ	56%
	Cont	94%
鐘 和	若上げ	12%
	Cont	22%

（催青温度は20℃）

（第3表）催青温度と虫繭質

品 種	催青温度	3眠蚕出現率%	化繭歩合	繭 重
錦 秋	20℃	6%	96.9%	2.36g
×	25℃	0	97.5	2.33
鐘 和	30℃	0	98.8	2.14
鐘 和	20℃	8	97.0	2.48
×	25℃	0	96.9	2.31
錦 秋	30℃	0	99.5	2.07

（第4表）幼若ホルモン添食と虫繭質

品 種	添食時期	化繭歩合	繭 重	繭 質
赤 城	Cont	95.5%	1.99g	25.7%
×	48時	90.5	2.25	24.7
清 水	70時	61.5	2.24	24.6
清 水	Cont	92.0	1.99	25.1
×	48時	80.5	2.05	24.6
赤 城	70時	81.5	2.19	25.4

(第5表) 冷蔵温度とふ化歩合

品種	冷蔵 温度	浸漬時間		
		0分	4分	8分
錦秋 × 鐘和	2.5℃	0.2%	55.1%	48.6%
	5.0℃	98.9	98.2	98.5
鐘和 × 錦秋	2.5℃	2.0	88.0	71.6
	5.0℃	97.2	98.4	97.1



6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

私はブラジルで養蚕について、いろいろな仕事をしています。今回の研修で養蚕の技術について思ったよりいい勉強ができました。

養蚕の技術について、まだ多く勉強をしたいとおもいますが、6ヶ月の研修期間がおわり、むこうでの仕事の都合でこれ以上日本で学べないのが残念です。

7. 合同研修会について

私たち6ヶ月間の研修の場合、3ヶ月ぐらいに一度合同研修会を行っていたらいいと思います。

8. 本邦での生活状況

私は、アパートで6ヶ月間下宿生活をしました。アパートは、試験場まで1.0kmところにありました。

試験場ではみんな、よくしてもらったのでなにも異常はありませんでした。

一ばん問題でしたのは、アパートに風呂もシャワーもなかったので、1.0kmぐらいかよわないと水をあびることができませんでした。

また、試験場の人は、仕事のあいまをみて、養蚕関係についていろいろなところへ見学につれて行ってくれました。

スポーツについてもいろいろなことを教えてもらいました。テニスもよくやりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私のぼあいは、6ヶ月間の研修でいい勉強ができましたので、こうゆう研修制度をつづけてもら



いたいと思っています。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本へ来て見て、いい勉強になりました。技術上については、いろいろと新しい技術を教えていただきました。

将来は、ブラジルで、日本で教わった技術を役立て、いきたいと思います。

養蚕業は、日本では少なくなって来ています（15%）。検査とか試験については、非常に早くけっかが出せることです。なぜかといいますと、自動的に出来る機器とその他にコンピュータを使っていることです。

なに一つやるのにも、自動的に機器を使います。かんたんにいいますと、電気せいひんをおどろくほど使っています。私は、今現在、養蚕についての仕事をブラジルでやっています。そしてこの研修について、事業団から選ばれて今回の研修が出来ましたことを非常にありがたいことと思います。

養蚕については、日本とブラジルでは非常にちがうところがありますので、（温度・湿度）日本でおぼえた技術で、ブラジルでいろいろな試験ができるようになりましたので、じっさい自分でやってみたいと思います。

ブラジルでは、一ばん困りますのは薬とか材料です。養蚕に専門的につかう材料です。また、日本からひかく試験に使うための薬をもっていくことができないので、せりかくの研修がブラジルでどれだけ出来るか不安です。私は、このめんについてなんとか出来ないのかと研修をはじめたときから考えていました。これは非常にむづかしいと思っています。私は、日本でおぼえたことをそのままにしておくとくことは出来ないので、ブラジルでいっぱいあせを流して一生けんめいがんばります。みなさん、ありがとうございました。

山 口 晃（ボリヴィア サンファン）



1. 研修機関 長崎県養鶏農業協同組合
野口養鶏場（長崎市三ツ山町）
長崎県中央家畜保健衛生所
長崎県養鶏組合サービスステーション、
大重理研株式会社

2. 研修期間 昭和59年4月～9月
3. 研修職種 養鶏技術

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

6ヶ月間を、有意義に過し、いろいろな事を学びたいと思い下記の計画をしておりました。

- (1) 漢字や専門語を早くマスターする。
- (2) 日本の生活や習慣に早く慣れる。
- (3) 養鶏技術
 - ④ 病理
 - ⑤ 飼料配合設計の仕方
 - ⑥ 飼料管理方法
 - ⑦ 出来れば卵の加工法（マヨネーズの作り方）

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

昭和59年4月6日研修先（野口養鶏場）に着き6ヶ月にわたり学んだ養鶏技術は次のとおりです。

- (1) 育雛のポイント
 - ④ ひなに良いスタートを与える
 - ⑤ 合理的な栄養分を与える。
 - ⑥ ストレスの積み重ねを避ける（主に夏期）
 - ⑦ 完全な記録をつける
- (2) 若めすの体重とその斉一性
 - ④ 若めすの発育と体重
 - ⑤ 制限給餌と体重（基本体重にあわせて行う）
- (3) 産卵鶏管理上の要点
 - ④ きれいな卵を生産する
 - ⑤ 完全な記録をつける
- (4) 鶏強制換羽の最新手引き
 - ④ 強制換羽の方法
 - ⑤ 強制換羽の経済性
- (5) 採卵鶏の夏の管理と病気
 - ④ 飼料摂取量
 - ⑤ 夏の病気（鶏痘、カビの病気）

8月20～25日までは長崎中央家畜保健衛生所にて病理、鶏の解剖の仕方等を習いました。



8月27日～9月1日までは長崎県養鶏農業協同組合鶏協サービスステーション（S・S）にて大原場長から飼料配合設計の仕方を学びました。

9月3日～8日までは福岡県筑後市にある大亜理研株式会社で飼料配合設計や実習等を習いました。その後は長崎県養鶏組合の有田組合長から経営するための指導を受けました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は18ヶ月間研修を望んでいたのですが6ヶ月コースで研修することになりました。

精密養鶏の飼養管理面等では思っていた以上の勉強をすることができ、一通り計画していたように勉強ができました。

だが期間が短かく病理や飼料配合設計の仕方等では中途半端で終わってしまいました。

7. 合同研修会について

4月2日、日本に着き横浜海外移住センターで各国の研修生達と合同で3日間を過ごし、事業団の方々からは日本での生活指導等を受けました。

祖国の土を踏む事が出来たうれしさや不案内な気持ちが入りまじっている上時差ボケもあったでしょう。あまりはっきりした記憶はありません。

8. 本邦での生活状況

日本に来るまではどれだけ言葉が通じ理解してもらえるかと不案内な気持ちでした。話すには不自由な面はありますが、漢字の読み書きが不十分だったため、良くわからない点がたくさんありました。研修面ではきびしく、自由時間も少なく、あまり遠出の旅行は出来ませんでしたが、日帰り程度の所はほとんど回りボリヴィア国では経験する事のできない楽しい一時を過しました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日系二世の南米育ちである私達には祖父母の国である日本の生活や習慣になれるまでは、3ヶ月程かゝると言っても良いでしょう。欲を言えば切りが無いのですが今後の研修生のために9ヶ月研修にしてもらいたいと思っています。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

第14回移住者子弟技術研修生（又は6ヶ月研修第一回生）として祖父母の国である日本に来て6ヶ月研修第一回生）として祖父母の国である日本に来て6ヶ月間が過ぎ去ろうとしております。

春先4月2日が昨日の事のように思える今日ですがいろんな事を体験する事が出来ました。

日本全体を見たとき、管理の行きとどいたきれいな街作り、どこに行くにしてもバスが通っており、何不自由することのないすべてが便利に出来ており先進国



であることを感じました。

先進国ではあるが良い面ばかりではなく、どんな仕事をするにしても競争相手が多く、衛生的で新鮮で、きれいな製品をと要求される。きびしい競争社会の日本では、いかにしてコストを下げ、良い製品を作るかにかゝっており朝早くから夜遅くまで働かなければなりません。その上休日も無い程にちみつな研究、研究と言った毎日であることを身にしみる程良くわかりました。

とくに養鶏の場合は卵価が安いので、こまかいところまで計算してコストを下げなければもうけが無いどころか赤字を出すと言う程です。

だが、このように皆が一生懸命に働く上に治安の良い国ですので、いろんな国と貿易ができ、技術も進み、ここまで発展したのだと思います。

養鶏の場合日本に比べボリヴィアでは飼料、原料のほとんどが国産品であるのでコストもはるかに安いです。

ボリヴィアで養鶏を経営して行くにあたって、日本で体験したこと、学んだ技術を生かせばたしかに成功すると思っております。

日本に研修に来た人達が学んだ技術を生かし成功させて行けば、ボリヴィア国を少しでも安定させることが出来るのではないのでしょうか？……

最後になりましたが南米育ちである私達のためにこのような機会を与えて下さった国際協力事業団の方々を初め、研修先でお世話になった人達には心から感謝致します。

本当にありがとうございました。

日 本 の 印 象

親 川 メリ子
平 田 百合子
宮 園 文 雄
松 尾 やよい
柗 山 めぐみ
東恩納 マリア・エレナ
斉 藤 寿 子
近 藤 豊

日本の印象について

親川 メリ子(ボリヴィア オキナワ)

夢に浮べて見ていた日本、文化の進んだ国、小さい頃から、日本の事を聞かされ、社会の時間に少しずつ勉強してきました。あの時はまだ意味もよくわからなかったけれど、だんだんと成長して、何もかもわかるような気がして来ました。

現在好運にも研修生としての道が開けた事を大変うれしく思っています。実際に研修が決まった時は、私のようなものでも日本で研修できるのだろうかと心配になりましたが、若いのだからあたえられた機会をむだにする事なく学べるだけのことを精一杯学んでいきたいと決心しました。

4月4日、午後4時頃成田空港に着きました。私は、やっと夢に見ていた日本へ着いたんだなーと思いました。そして一番気になりましたのは、車は多いし、町も広い、また人も目が回るほどたくさんいるし、建物もすごい、皆本当に珍しいものだけにびっくりです。まだ色々な事はくわしく知らないので日本語の講習時間と共に日本の歴史を勉強したいと思っています。

これからも、苦しい事やつらい事もあるでしょうけれどもそれをのりこえるのも一つの勉強だと思います。そして出来るだけ精一杯日本語を学びたいと願っています。

日本の印象

平田 百合子(ブラジル サン・ミゲール・アルカンジョ)

日本の話は幼い頃から父や祖母からいろいろと聞いていました。話を聞き約3年前日本へ研修生として来たいと望んでいました。でも仕事の都合で決意したのは去年の7月でした。申し込んで間もなく日本では女子農業研修生を受け入れないと知り残念がっていた時、サンミゲールアルカンジョの日本文化協会の方から力を借り、漸く試験を受ける事になりました。試験の結果は去年の12月にOKだと知りました。もう日本について1週間たちました。日本はとってもきれいな澄みきった清潔な国だと一番初めに気づきました。私達は水曜日に横浜にある三溪園に見学に行きました。入ったとたんに何んだかサムライ時代へ戻ったような感じがしました。でも昔の建物をよく今まで守り続けている事にはとっても感心しました。私達はセンターで1ヶ月間日本語の講習を受ける事になりました。いろいろな事を覚えたり、学んでいます。日曜日は、新宿へお友達と買物に行きました。何んだか日本人はとっても買物好きに見えました。どのデパートへ行ってもあの人の数にはビックリ。でも日本人はブラジ

ル人とちがって規則を守り合うからとってまきちんとした国であると思います。

日 本 の 印 象

宮 園 文 雄 (ポリヴィア サンファン)

ポリヴィアから、はなれて約5日ぐらいになります。むこうにいる時は、いろんな日本の話を聞いてきましたが、まだまだ日本に来て月日が浅いので、たいした印象はありません。ただ3つだけ注意をひいたものがあります。その1つは、宣伝のポスターです。自分が見なくとも、知らず知らずいつも見えています。ポリヴィアよりきれいに整理がついていますが、ポリヴィアとくらべ大量にバスや電車の中、道路を歩いている時などとても目だっています。すなわち、最後までこの自由消費社会にたえることができるよう努力したいと思いました。2つ目は横浜の三溪園に行った時のことです。説明する方が「自然のままの美しさです。」というような事を話されましたが、べつに僕は、そう思いませんでした。確かに、建物はみごとなものですが、ポリヴィアで見る自然の風景は、もっと花やかで生き生きしています。だけどころいった自然が、今の日本独特の心を生み出したのだと思います。ですから日本の人を理解する出発地点ではないでしょうか。

三溪園からの帰りに飛行機のキップを買いにいった時の事です。会社帰りなどの人でこんでいました。電車の中で、あちらこちらでいねむりをしていたことです。それを見てやはりこういったことが世界に、ほこる日本人の秘密ではないでしょうか。こういうとひにくのように思えますが、僕がいつている意味は、それだけ働きにはげんでおられ、電車の中で休まれるということです。1分もむだにしていないような気がしたのです。おたがい理解し合っているように感じさせられました。その人達を見ながら、こうやって研修にこられたことを感謝し、心の中で「ありがとう。」とつぶやき、これからもきたいに答えなければと自分にいいかかせながら電車からおりました。

日 本 の 印 象

松 尾 やよい (パラグアイ フラム)

4月2日父と妹にアスンシオン空港で見送られ、ブラジル、リマ、ロスアンジェルス、そして日本時間の4月4日3時過に成田空港に着いた。幼い頃から憧れ、ようやく日本の土を踏んだと思った。空港まで事業団の方が出むかえてくださり、バスで横浜市の移住センターに直行した。センターでは、

昨年度の先輩達が歓迎会と、両手を開いて参考になる話とともにむかえてくれた。緊張もありあまり疲れを感じなかったが、その夜はグッスリ寝ることが出来なかった。翌日はドッと疲れが出、1日中頭がぼんやりしていた。

日本人は冷たいと聞いて来たが、私には親切に思われる。特に飛行機の中で知り合った東京のおばあさんは、空港で私の手を取り何度も遊びに来てほしいと言った。日本に着いてまだ日数もたっていないせいもあり、日本の習慣もよくわからないが選挙運動が目につきました。初めは朝早くからなにかのメーカーの宣伝かと思ったくらいです。

私は明日研修先である高知に出發します。明日から私の新しい生活、新しい友人、新しい道に1日も早くとけてんでゆくよう努力したいと思います。

日本での生活

松尾 やよい

この9月で、日本に来て、早くも6ヶ月が過ぎた。

日本とパラグアイのちがいを感じていたのは最初の2ヶ月ぐらいで、その後は、ほとんど感じなくなって来た。初めは、バスに乗ることさえにも、とまどっていたことがウソのようだ。

4月10日、どしゃ降りの雨の中を高知空港に着き、初めて合う、親戚、また大学や県庁への緊張続きの挨拶を終え、そして、ようやく、日本で一暮の下宿生活をスタートした。下宿には、なれているものの、日本の物価はたかく、色々わからないこともあり、少々不安を感じたが、下宿の学生達にたすけられ必要な用具をそろえた。

最初は幼いと思っていた学生達とも、すぐにうちとけることが出来、心配していた友人関係もうまくいっている。いつの間にか、皆と同じ方言を話しているようになった。

大学では1限100分という、授業を行っており、それは楽なものではなかった。しかし、それも3週間ぐらいで慣れてきた。

講義は想像していたよりもわかりやすく、教授達も、親切に教えてくれている。講義の内容は、特に幼児期における問題行動についてが多く、幼児期には人格形成に一番影響ある時期であり、それが母親の養育方針一つで、左右されている。養育態度がいかに重要であるかと、おどろいている。幼児を養育していくには保母にも同じことがいえる。それゆえに、保母としての役割は、どんなに大切かとつくづく感じている。

後、のこりの1年でどれだけ学べるかわからないが、出来るだけ日本の教育や文化を学び取って帰りたい。

58年9月30日

日 本 の 印 象

佟 山 めぐみ(ブラジル サンベルナルド)

祖父、祖母、父母たちの古里日本へ来ることは、きっといつかは実現する夢と、私は心の奥でいつも願ってましたけれど、その機会がこんなに早く来るとは思いませんでした。

日本へ来る前の不安は、成田空港へ着いた時ブラジルから来ているいとこ並びに山形に住んでいるおじさんとおばさんに会った時、「ああ、自分は日本に来たんだなあ。」と1人で思いました。みんな私を暖かい心で迎えてくれましたので、とても安心しました。

私が日本に着いて印象的に感じたことは、なぜこのように狭い国で1億人以上の人が住んでいて、島国であり食物や作物の出来ない国に、国民はなにも不自由のない暮らしをしていて国はこんなに発達しているのか、いくら考えても納得ならないのです。どのようにしたらブラジルもこれほどの国になれるのだろうか、私はつくづく思います。

日本についてはいろいろ本でよんだり、母からも話でいろいろ聞かされましたけれど、私たち南米人に比べたら、日本人は本当にしっかりしていて、時間を1ぶんもむだにしないような感じがします。駅でもあんなに沢山の人がいても、みんなに間に合うように設備がととのっているのには感心しました。

初めての飛行機の旅、ブラジルとは言葉や習慣がまったくちがう国、それから家族とはなれて暮らすなんて私にはみんな新しい経験なので、初めはとても心ぼそかったけれど、いとこが手紙でいろいろと心理的に、私を指導してくださったので、今はあまり苦労していません。

私が研修生として日本へ来て研修の場として希望した東京都の養育院へ行けるのもみんな国際協力事業団の方たちのおかげなので、心から感謝の気持ち一杯です。皆様、ほんとうにいろいろとありがとうございました。

日 本 の 印 象

東恩納マリア・エレーナ(ペルー リマ)

私は日本で生まれて5才の時ペルーへ家族一緒に移住しました。だからいつか日本へ行きたいと思っていました。そして日本の教育、文化、技術、経済は特に進んでいるといつもきいていました。このようにもっとも進んでいる現在の日本の姿をよく観察したいと思っていました。だから研修生とし

て来られたのはとても幸運と思います。

成田に着いてもっとも感心した事はとてもきれいで、けがれのない近代的な建物。そしてものすごい人波にびっくりしました。

半時間ぐらいたってバスに乗りました。日本の車の通行は左側ですこし変な感じがしました。移住センターへ来る途中、高速路も一般道路も南米よりせまいのに気づきました。でも、いろいろな標識が所々に立ててあるし、運転手も徒歩の人も厳しくこの標識に従うのでとても安全な気がしました。移住センターに着いて今まで見た事の中で社会の安全、まわりの清潔、すばらしい技術、栄えた産業などいろいろなありさまに感心しました。

日 本 の 印 象

齊 藤 寿 子 (パラグアイ イグアス)

日本に着いての印象は、まず、空の違いです。南米の夕日と青く澄みきった空を思うと悲しく感じました。日本人に南米の大自然の生々とした姿をぜひその目で確かめてほしいです。きっと感動してやまないと思います。

それとビルの谷間ばかりで、空を見渡すことが出来ないのが狭苦しい感じがしました。

桜は、やはり列を成して咲いているととても美しいです。満開時に枝一杯の開花は、日本情緒ある美しさを感じます。

どこに行っても、人、人、人で目が会っても挨拶を交す事もなく通り過ぎて行く人々、人口が多いのでしかたありませんが、冷たい感じがします。何もかも揃っていて、便利な事はいいですが、店内に入る前と出る時、スピーカーで声を流している店があったので、時代はここまで変わってしまったのだと、つくづく思いました。でも店員のサービスの良さは、日本が一番だと思います。

研修生の皆さんも日本と南米の習慣の違いには、とまどいを感じている様ですが、日本の良い面、悪い面を理解して、それぞれの良さを、自分の身につける様に努力したいと思います。

日 本 の 印 象

近 藤 豊 (ボリヴィア サンファン)

私は、ボリヴィア国から4月4日-4時10分に、第13回子弟技術研修生の1人として成田空港に到

着しました。

それからすぐ事業団の方に海外移住センターにつれて行ってもらいました。

私は、日本に来る以前から日本については、色々な方法で、ある程度知っていたつもりですが、いざ来てみると、想像していた事とはずい分ちがった部分が目につきます。

すぐに感じたのは、この小さな日本の国で、人口が多い事ですが、見てすぐ世界的に発展している事が直感的にわかりますし、世界の国々がなぜこの日本に目をかたむけているのかが、やっとなっとくした感じです。

町の中へ入って見てびっくりする事が二、三あります。かんたんに言いますと人の多い事とか、又その人たちのいそぎようです。ボリヴィアではめったにこの様な事は見られませんし、又、感心するのは交通が便利だし、色々な商店街へ行って見ると商品自体、ものすごく手入をしてあって見た目がすごくきれいだし、又何でもあります。

まだ他にたくさん色々な事を知りました。私も日本に来てコンピュータの方もしっかり身につけ、ボリヴィアの人々に役立つ様、頑張って勉強に身を入れたいと思っています。そして日本の色々な所、進んだ文化など色々じっくり見て行きたいと思っています。

前期研修を終えて

終	山	めぐみ	松	尾	やよい
井	口	克博	親	川	メリ子
桜	井	真紀子	近	藤	豊
小	椋	猛	野	村	譲二
芥	藤	寿子	森	岡	正行
嘉	味田	ホセ	伊	敷	勉
平	田	百合子	東	恩納	マリア・エレナ
石	山	益雄	玉	腰	活信ジョン
関	山	恵子	宮	下	彰
鈴	木	なな江	四	元	マリア・セレージャ
高	橋	幸夫	曾	根	睦
永	野	則武			

前期研修を終えて

椋山めぐみ イザウラ (ブラジル サンパルナルド)

昭和58年4月日本に入国して、早くも1年が過ぎ、振り返れば楽しいことや苦しいこと色々あり、長いようで短い1年でした。夢と希望と不安な気持だったのですが、成田空港に着いた時期は私にとって肌寒く感じ、横浜移住センターに向う途中に咲く桜の花が印象的でした。ブラジルから希望して来た養育院での研修は4月18日から始まり、福祉の専門的な分野や日本語の読み書きが充分でない私にとって指導して下さった皆様方には、大変御迷惑をかけたと思っております。最初の2～3ヶ月は環境や言葉になれるためにただ一生懸命でしたが、研修先の皆様がとても親切に解かりやすく指導して下さったので、少しずつ理解する事が出来ました。

老人問題の一般的な知識を得るために日本の社会保障全体の体系、老人福祉施策の現状、東京都の老人福祉施設の状況、老人問題、計画のたてかた、解決の仕方、所得保障、老人福祉法、福祉の措置などの説明を受けました。養育院はいろいろ分院があり、全部を見て来たと言えるでしょう。

板橋ナーシングホームでの実習は、体が弱い老人、又は寝たきり老人の処遇、おむつ交換、入浴、食事介助などを経験し、全面介助の人もなんかいいました。ハーフウェイハウス室やリハビリ室も見学しました。

ナーシングは一度入るともうそこが最後の場であり、死ぬまでそこで生活をして行く所で医療と福祉の重なり合った所であると感じました。いろいろな生き方をして来た老人たちが、体が弱り、人生の最後のひとときをホームで過ごすという悲しい所だと思いました。その期間、老人たちが安楽に過ごせる場所をつくるには、老人たちに生きがいを与えるお世話の仕方や内容を考えることがとても大事だと思います。私たちが老人の生きがいという事を考えた場合、まず物質的な面を中心に考えてしまいがちですが、ただ物を与えるだけでなく、その人の精神状態を安定させることが一番だと思います。

体の弱い老人の心理や職員の接し方、入浴の回数、食事の時間などを見せていただき老人たちがもっと家庭的な生活を送って行くにはどうあるべきなのかを考えました。

8月から東京都東村山老人ホームの盲老人施設と養護施設で実習しました。研修では、自分でアイマスクを使って歩行訓練を行い、障害者の立場に立ってみると、やはりなにをするにもとても難しく不安な気持で一杯になり、この実習により盲人の方々を少しは理解できるようになりました。盲人であろうが正眼者であろうが、相手の立場になって物を見たり考えたりする必要があることを深く教えられました。

養護老人ホームではいろいろな老人たちと話してみると、みんなが要求しているのは職員と利用者

の心のふれあいだとわかりました。老人たちにとって施設が生活の場なのだから、“できればもっといてこちのよい所にしたい”と話す老人もあり、そのようなお話を聞いてとても参考になりました。

12月、1月は千葉福祉ホームで精神薄弱児者施設で児童と成人寮で実習し、そこで教わったことはその人たちを健全者と同じように見て、次にその人は健康な人と比べてどこが違うのかを考え、そこからそれぞれの病気や個人的な違いを考えていくということが特に参考になりました。精神薄弱者に対しては全く経験がなかったので、この2ヶ月はとてもいい勉強になりました。

2月、3月は東京都老人総合研究所の社会学部と心理学部を主にして研修しました。社会学部では、老人の社会福祉を中心に職員それぞれの研究テーマについてお話を聞きました。日本で現在おこっている家族問題、中高年齢労働者の労働と生活がどのようにかわって来ているのか、在宅サービス、高齢者が抱えているいろいろな問題があることがわかりました。

心理学部で学んだいろいろなことの中で最も大事だと思ったことは老人のプライバシーにかかわることでした。雑居部屋にカーテンがあるだけでその老人のプライバシーがどれほど守られるのか、それが老人の心理にどのような影響を与えるのか、自分の世界を出来るだけ広くしてあげることがどれほど大事なことか等々がわかりました。

ブラジルでは福祉大学の1年を勉強しただけで、福祉についてはあまり経験のない時に日本へ来たのでこちらで学んだことが私の持っている福祉の知識の全部と言ってもいいでしょう。これからは福祉事務所で実習をし、福祉を必要としている人たちがどのような生活をしているのか、その人たちのための福祉とはどういうものなのか、いろいろとお話を聞き実際に現場に行き具体的に学んで行きたいと思っております。

この1年間施設での実習の他、数多くの施設を見学し、これほど勉強ができたのも国際協力事業団の皆様、並びに養育院でご指導下さいました皆様のおかげだと思っております。これから残り少ない6ヶ月間、やりたい事はたくさんありますが、私にとって最高の研修期間である様に頑張りますので今後ともどうぞよろしくおねがい申し上げます。

前期研修を終えて

井口克博(ブラジル サント・アントニオ)

私は前期研修を福岡県農業試験場園芸研究所果樹部で1年間ブドウ栽培、および試験(肥料、薬剤、剪定別、その他)研究の研修を受けました。宿泊は福岡県農業大学の寮でお世話になり毎日研究所へわずか1kmの道を通いました。

この研修は昭和58年4月4日に南米ブラジルより日本の成田空港に20年振りに“里帰り”みたいな

ものになりました。生れて初めて見る日本、これから自分は本当にやって行けるのだろうかと考えると不安になりました。3日間横浜での合同研修を終り4月7日には第12回生の麻生君、磯田君と第13回生の野村君と共に同じ研修先の福岡へ夢をふくらませて飛び立ちました。

福岡の試験場は九州ではもっとも大きく広い土地の中には園芸研究所、畜産試験場、農業大学校、農協研修場等、農業の研修に必要な全ての物がある所です。私の研修場、果樹部では落葉果樹、常緑果樹、品種と3つの部があり、その落葉の部門で実習をしました。初めの1ヶ月は時差ボケと南米ボケで考えることと、手足の動きが全くバラバラでした。部の仕事は主に石出し（園が新しく、山をけずって作った園）草刈り果樹枝の誘引などで、樹に花が咲き、果実が肥大する頃は袋かけや薬剤散布を毎日のようにやり、梅雨時になると草もよく伸び、仕事もふえ、むしあつい日本の夏をいやというほど経験しました。8月の末からブドウの収穫が始まり、調査、食味、試験、分析、その他をすすめて終末を迎える。部の園内にはなしやかきなどの収穫もあり、合間にはまた草刈りや夏場にはかん水やらの仕事もあり大変だった。9月の末には横浜で合同研修があり、早いもので来日以来もう6ヶ月過ぎていました。第12回生研修生も1年半の研修を終えて帰国となりこの時初めて日本での18ヶ月の生活は短かく残り1年の研修生活をより有意義にしなければならぬと感じました。

10月の初めの合同研修旅行は日光へ行き、日本に来てから初めての心のこける場所だったと思う。日本のすばらしい秋の紅葉と日光東照宮の建築の美しさを見ることができました。試験場へ帰り冬のための仕事が始まり全園の果樹畑の「うめかえし」などと呼ばれる作業が果樹には非常に大事であることを教えられた。樹木の間を掘り、堆肥、化学肥料、ささの葉木、わらなどの有機物などを入れてたがやします。この作業は10月の中下旬頃からおそくとも11月の末までには終えなければならない作業です。南米では季節が逆ですので月が変わりますが基本は同じです。

12月～2月頃までは剪定技術を研修しました。春になると新しく芽が出てまた1つのサイクルの始まりとなります。

この1年間日本で学んだ事は、私の人生の中のほんのひと時にすぎないかも知れませんが長い人生の中ではもっとも大切な時間となると思います。この期間中に日本の各地へ旅行も多くしました。とくに九州は全部回り、日本の古い伝統や名所旧蹟などを見、多少なりとも知ることができて本当に良かったと思います。私は日本で生まれたと言う事もあって、南米で生まれた人より多少日本への想いもちがうでしょうが、いつの時代になっても私達の体には日本人の血が流れている事は変らない。ブラジル、または他の国で生活していても、心のかたすみにはいつも日本のすばらしい伝統と文化の香りをのこしておきたいと思います。私達の研修もあと半年、岡山県のブドウ栽培農家で研修（実習）をしますがまだまだ知りたい事、経験したい事など多くあり、自分の力の限り頑張ってひとつでも多く日本の良い物を持って帰りたいと思います。

前期研修を終えて

桜井 真紀子(パラグアイ アモンバイ)

来日する事が出来て、早くも1年がたってしまいました。この1年を振り返って見るとパラグアイを出発した時は、不安と期待でいっぱいだった私ですが、1年間過ぎてしまった今では、すっかりこちらの生活に慣れているのがわかります。

私にとって今回が初めての1人立ちでしたので現在ここに至るまでには、想像も出来ないくらいの悩みが待ち合わせていました。

前期の研修は、看護婦の勉強を福岡の福岡市医師会看護専門学校で行って来ました。看護婦という職業が、こんなにも大変な仕事だとは想像以上に苦しく、人間の生命を預かる重大さをつくづく考えさせられました。

人を疾病から援助できる事は、素晴らしいことですが、又、この世から去る人達を見る事は、とても辛いものです。

人間は、この世に生まれて来た以上、いつかは、必ず死ななければいけないものだとわかっていながらも、この職業をやっている私達には、その生命の定めにもかって強く対抗しなければならないのです。

疾病に強く対抗するには、それだけの勉強をして、技術を身につけなければ到底それに立ち向う事は出来ません。

この1年間、学校、又病院での生活は、思ってもいなかった勉強の数と病院での仕事の量でした。

看護婦の勉強は、多くの専門用語が使われているので、学校の友達ですら、むずかしいと言っているぐらいなので、私にはそれ以上の努力が必要でした。

勉強の内容としては、看護原理、解剖学、看護歴史、外科学、内科学、精神科学、耳鼻咽喉科学、整形外科学、産婦人科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、歯科学など、看護婦になるための必要な基礎科目をやってきました。

また、この1年間の研修生活の中で、日本という国を見てきましたが、いろいろな面で感動しました。淋しい体験をし、私の人格形成にも役立ったことと思います。

日本の四季とは、想像していたよりも、すばらしく、私達の国では、絶対に味わう事が出来ないものを経験できて、本当に良かったと思います。

後期は、総合病院で、臨床実習に入ります。この1年の間、学校で学んだ事を実際に生かしながら患者さんに接するのです。

また、これからも大変だと思いますが、一生懸命頑張っていきたいと思っています。

前期研修を終えて

小 椋 猛 (パラグエイ フラム)

この度、前期研修が終わり早くも1年が矢のように過ぎ、振り返ってみると来日した日が昨日のように思えます。

この1年間私は、愛媛県立宇和島専修職業訓練校の電気工事科にて研修をさせていただきました。

当訓練校では、主に学科、実技とも電気工事士が必要とする基礎知識を勉強して来ました。

学科の中での科目は、電気理論、電気工事、配線設計、製図、電気器機、器機修理、電気関係法規、測定、等がありましたが、なかでも電気理論は今まで経験のなかった、計算問題が出てくることもあり、1学期中は次々とまどうこともありましたが、その後、慣れてくるとあまり頭を痛めることもなくなり、一安心したとき、今度は配線設計で照度計算や、配線図を見て行う積算などが、出てきて難しいと思いましたが、反面とても勉強になりました。又器機修理の測定では実物を使って勉強したので早く理解が出来ました。

実習では最初の1ヶ月は、電線の被覆のむき方、ガイシの取り付方や、電線の接続を習ってから、1学期の間は、ガイシ取付工事から始まり、ケーブル工、金属管工事、合成樹脂管工事等の、最も多く一般住宅の配線に使われる工事方法を習い、2学期に入ってから、1学期に習った工事の他に、動力関係の配線工事、建柱及び装柱工事や引込工事等の行ない方など、広い範囲での実習でありましたが、毎日、明日はどんな事を習うのかと楽しみでもありました。私は特に動力関係の制御に興味があったので、指導に当たっていただいた先生に多く質問をして理解ができるまで教えていただきました。

3学期に入ってから気候も寒くなりほとんどが屋内での実習に入り、2月には技能照査の試験が行われ、3月には修了試験がありました。両方とも合格することが出来、とても嬉しく思いました。修了試験は電気工事の免許取得の試験でもあったため、私も外国人でありながら、日本の免許を取得できたことが今までの研修の、一番大きな収穫となり、私の日本での研修の証になることが、とても光栄です。

後期の研修地で少しでも、今まで習った基礎知識を活かすことが出来れば幸いと考えます。

私は日本での生活には、あまり苦勞はありませんでした。友達も意外と多くでき、あまりホームシックになる事もない日々でした。

クラスメートの人達も良い人ばかりで、早く土地の習慣に慣れることができ、この土地で研修できたことをとても嬉しく感じています。

又半年毎に行なわれる子弟研修生合同研修会は最初から待ち遠しくて、毎日楽しみにしていました。私達が来日してから半年目の合同研修会は12回生の先輩の方々の見送りと、観光地研修旅行が主に

りましたが、同期の人達もそれぞれの土地で、半年の研修を終えて全員元気な顔で集まりそれぞれの研修地のことに話のはずむ毎日でした。又日光への旅行ではとても素晴らしい日本の景色を見ることができ、良い思い出になりました。

私は来日してからいつも思うのは、母国で聞いていた日本のことわざの「百聞は一見にしかず」の言葉がことわざ通りだと体験しつづけています。

最後になりましたが前期研修を終えて、私はこの機会を与えて下さった、国際協力事業団の方々、又1年間私の指導に当たって下さった恩師の方々に、この場を借りて深く感謝の意を示させていただきます。

前期研修を終えて

斉藤 寿子 (ラグァイ イグアス)

この1年間、東京都町田市にある玉川学園で保育及び幼児教育に関する講義と実習を研修して来ました。研修内容の他にも、様々な事を学び経験し今までにない、充実した1年間でした。これから、この1年間研修した事を振り返ってみたいと思います。

最初は、大学の入学式に、参加させていただきました。短大、文・工・農学部と4種類の学部が揃っているのです、入学生も2千人近い人数に圧倒され、そして、学長先生の祝辞、上級生による歓迎の合唱演奏に感激しました。

大学の講義を聴講し、テスト期間中は、幼稚部での実習を行いました。

講義の一部として、リトミックでは、演劇スタジオにて発表会を通して、1年間の成果を示し、身体表現を通して感受性、創造性を高める喜びを深く体験する事が出来ました。児童演劇表現研究及び実習では、身体表現活動を通して、フォーマルな教育とインフォーマルな教育の違いと、インフォーマルな教育での、質問し思考を働かせて持っている知識を引き伸ばす事がより豊かな感受性、創造性を成長させる上で大切であることを学びました。

1月25～2月29日における幼稚部実習では、最後に今までの実習成果を見る為に部分実習として、室内での一斉活動のカリキュラムを作成し活動指導を行い、活動中、子供達の思わぬ行動や反応から、指導者の言葉のかけ方が重要な役割になる事を認知できました。以上を通して、子供は遊びながら、思考力、視野を広げ豊かな人間性を養うことが、将来に大きく影響を与えていることも理解できました。

その他、大学の音楽祭でベートーベンの第九合唱千人のソプラノパートに参加し、音楽を通しての大きな喜びと素晴らしさを体験する事ができてとても良かったと思います。

塾（寮）生活においても、規則正しい生活習慣や積極的な協力の姿勢、女子は、作法講習から女性のマナーを養いました。教養講座で書道に入り、コスモス祭（文化祭）の塾展に掛軸を展示するなど形として残す事ができてよかったと思います。そして、部会や講話を通して、全人教育、労作教育に対する理解を深め、その他、多くの経験を積む事ができました。最初は、規則、服装面にいたるまでの細かい決まりが、束縛されるようで、とても窮屈に感じましたが、友達づくりなど共同生活の良さも経験できて良かったと思います。

これから後期研修にあたって、大学の講義は教育学科を多く取り入れ、小学部実習、ピアノの基礎を身につけたいと思います。

残る半年間、悔いのない様、有意義に、前向きな姿勢で研修に励み、視野を広げ、自己を磨き、努力して行きたいと思います。

前期研修を終えて

宮 園 文 雄 (ポリヴィア サンファン)

私の専攻について日本に来る前予め帰国した研修生からある程度牧場での生活や病気の内容など、話しを聞いていて、自分なりの想像をつけていたのですが、実際に体験するとなると、種々な、問題にぶつかり不安なものでした。たとえば一つの目的であった家畜人口授精師の資格について、はたして自分の日本語が通用し、この研修期間に取得できるのか、日本語の問題から始まり、人間関係、そして生活習慣の違い等々、毎日の生活そのものの不安でした。

着いてすぐ、「君のやり方では皆がついてこない」とか、「つきあいが悪い」とかなどと周囲の人に言われもした。又、十勝種畜牧場では、草地畜産実技研修期間中で講義の講師の方々が帯広畜産大学から来られた教授ばかりが、出席され濃密な講義をされるときの時に、はたしてその講義を理解し、色々な技術情報などを選び自分のものにできるのだろうか。それとも何も分からず、講義中いねむりをするのではないだろうかなどと一時、非常に悩んだものです。そんな心配も、お陰様で1年間過ぎた今ではこれが心配ごとで終り畜大の先生方から受けた講義もほとんどといてもいいほどパーフェクトとは云えないまでも理解でき、腹一杯の質問もでき満足しています。日本語も口がたつにつれ自信が付き、友達の酪農短期大学生と同じくらい（専門用語の理解では劣りましたが）意見交換も出来高卒の研修生からは逆に質問されるようになりました。

日常生活での交流については、最初は2人で同じ部屋にいたわけですが、相手の人が神経質で、私の性格とどうしても合わないため別々になりましたが、今思えば私の方がおそくまで起きていたり、朝早くおきたりのポリヴィアでの習慣が抜けきれずに集団生活にとけてまなかったことが原因であっ

た自分の欠点であったのかも知れません。しかし、私にとっては、又とない日本での毎日々々であるので、少しでも多くの技術を自分のものにしたいし、研修生仲間の中でも1人日本語に自信がなかったのが日本の人達の倍は、勉強しなければと自分に云いきかせて来た結果であったとも思います。それに前々から一人部屋を望んでいたのが結果的には希望がかないました。

それに私は、研修が決まったころから、研修生活を少しでも多く、有効につかうこと、日本の方々に対し、頭を低くすること、また恵まれた日本の物資消費社会にのまれないことを自分自信への心がまえとして、毎日を過してきました。その成果が実ったせいか、最初、日本人に「人に相手にされないよ。」と言われた私ですが後にはだれかが部屋へきて、夜一時過ぎまで話し込む等の体験をすることも少くはありませんでした。ですから酒のつきあいのなかった代わりに、それよりもっと深い交流ができた様な気がします。

私の専攻が酪農（乳牛）だったので研修中は1ヶ月に1回休みがあればいいほうで、そんな日には、近くの酪農農家を見学して歩き、始めて会う人達からも少しの時間でしたが大変良くしていただきました。

又、この十勝種蓄牧場の先生方も去年の合格率（家畜人工授精師）が低下したため、今年度は、特に指導に力を入れて下さったことは私にとって幸いでした。そんな中で、私は四輪車の免許を除いて、他の日本の研修生と同じようにあとの5つの資格をすべて手にすることができました。

1年間が過ぎた今、ふりかえって見ると、研修所周辺の観光地などは、見にいきませんでした。自分の専攻については、思い残すことはありませんし、「青年の主張」で、地区予選にも参加でき、これが日本語の勉強にもなり、良い思い出の1つになることでしょう。酪農については、講義を受けていくなかで、日本の牛肉輸入自由化問題、食生活の中での牛乳そのものの栄養価値などの重大さを理解するとともに、あらためて酪農に対し興味を深めることができました。今回は、前期研修についてのみ感想文だけにとどまりましたが、あとの6ヶ月間では、酪農実務も体験して、あらためてこの1年間を評価したいと思っています。

前期研修レポート

嘉味田 ホセ (アルゼンティン ブェノス・アイレス)

私は始めて両親の生まれた沖縄の地にきて、土壌・気候・農業経営等、あらゆるものが自分の国で考えていたものとは異なるなかで研修をすることになりました。最初に感じたことは、日本の花卉園芸が、このように発達していることにはびっくりしました。このような立地条件の異なる沖縄において花卉の研修特に私は鉢物類の研修をしたく課題をもってきましたが、そのなかでも、ランにつ

いて重点的に研修をさせていただきました。研修期間中は花卉研究室の室長さんをはじめ、各研究員の先生方にラン以外の花卉類についても、御教示いただきましたが、研修終了後、私はランを中心とした農業経営をしようと思い、レポートについてもランだけについて報告させていただきます。研修期間中は、技術研修以外にも、いろいろな面で支場長をはじめ、全職員に大変御世話になっており、この研修レポートをもって御礼を致します。

1. ランの種類とその特性について

ラン科植物は、多くの種類があり、原種について大別しますと、西洋ラン、東洋ランに大別されますが、私の場合は、特に西洋ランについて研修しましたので、これについて述べてみます。洋ランの場合はその原産地は世界各地に広がっていますが、特に中南米・アジア等に多いといわれます。

洋ランをさらに大別しますと、気生ラン（着生ラン）地生ランに分類され、気生ランは標高の高い所に分布し、地生ランは樹陰地の湿度の高い場所に多いと云われています。気生ランの特性は根が常に空気にふれることが大切です。したがって、原産地での生育も、岩や木の枝等に着生し、空気中や雨水からの栄養分や水分を吸収し、生育しています。種類としては、カトレア、デンドロビウム、ファレノプシス、バンダオンシジウム等がそれであり、地生ランは土壌を主体として生育していますが、直接その根から派生します菌根により共生しているために集団をなして生育している場合が多いとされています。たとえばパフィオペディウム、シンビジウム等がそれであり、以上のような原産地の生育状況から、ラン類と他の作物と異なる特性は、普通の土壌では通気性が悪く、栽培できないことと、繁殖についても、特別な方法でないといふ点にあると思われ、次はこれについて述べてみます。

2. ラン栽培の技術的ポイントについて

(I) 温度管理について

ラン類の温度管理については、科学的に定説はまだありませんが、あらゆる書物をもても異なる説が述べられていますが、沖縄県で研修を受けたものをまとめてみますと、まずは低温性のものとしては、シンビジウム、デンドロビウムノビル系で、夜間最低が7～8℃でも生育するタイプと中温性としては、カトレア、エピデンドロム、パフィオ、オンシジウム等であり、これらは、夜間13～15℃は必要とされます。

また、最も高温性の種類としては、バンダ、ファレノプシス、デンファレ等であり、夜温は18℃以上必要とされ、これらのランについては、沖縄でも冬期は加温が必要とされます。以上のことは生育させる場合の温度管理であって、花芽分化等については、特に低温性タイプについては沖縄の気象条件では温度が高すぎて分化できないものもあります。

(2) 湿度管理について

ラン類の場合は、直接雨に当てると枯れますが、空気中の湿度は生育にとって、非常に必要であり、ほとんどの種類が50%以上の空中湿度が理想であり、その中でも、特にバンダ、カトレア等は最も高湿度を好み、70~90%の湿度が適当であるとされています。しかし、これも生育させる場合にのみ云えることであり、開花をさせるための花芽分化期や開花期の場合は湿度は下げるようにしなければなりません。

(3) 灌水管理について

ランはすべて鉢植えで、しかもミズゴケ、カル石等に植えられていますので、灌水管理が、ラン栽培の場合は、もっとも重要な技術となってきます。しかも種類により、又季節により、生育ステージによって灌水の方法を変えなくてはなりません。生育ステージ別には、幼苗のころと、花芽分化後の花梗の伸びるころには1日2回も十分に水を与え、その他のステージでは、植え込み材料を指でおさえて、上部が乾いた時に与えます。季節的には、夏場は多くし、冬場は少なくすると同時に、午前中で灌水は終るようにします。種類別では最も水分を必要としますのは、シンビジウムで、次いでデンドロビウムですので、これらは多く水分を与えるように管理します。バンダの場合は植え込み材料を使わないので、乾燥が早く、1日2~3回も灌水をする必要があります。

(4) 施肥管理について

ランの施肥はきまった基準はありませんが、これまでの経験材料によって知り得たことをまとめますと、肥料の種類は、液肥を中心にし、ハイポネックスの1,000倍液、液肥の500倍液を1ヶ月に1回程度にし、その他油粕を置肥として年2回与えたほうがよいとされています。与える時期は、新バルブが現われる春から行い、バルブの完成する秋までに、施肥を打ち切ることが、施肥管理のポイントだといわれています。

(5) 繁殖技術について

ランを自分の経営に取り入れる場合に最も重要になってくるのが、繁殖技術だといわれますが繁殖の方法としては、株分け法、芽ざし法、実生法、メリクロン等がありますが、そのなかでも株分けと芽挿しについては、この研修をとおして、自分でできるようになりましたが、実生とメリクロンについては、特に金城栄子先生から御教示していただきましたが、薬品配合、培地の作り方、莖頂の取り出し及び、置床等については、まだ十分に熟練してなく、一様はその方法については習いなかったので、これから本土での6ヶ月間は、この技術について、再研修をし、自分で確実にできるようにしたいと思います。

3. 研修終了にあたって

日本国での研修が終了し、自国へ帰りましたらもちろん農業をしますが、そのなかでも、ランを

中心とした農業経営を行うつもりでおりますが立地条件の異なるアルゼンティンで、しかも日本国のような指導機関もありません。沖縄県では試験場で研究された成果は農家に普及し、特に花卉については、その栽培技術を取り入れ、皆成功しているのを見ますと、うらやましく思います。帰国して、私が迷った場合は国は遠いんですけど、今より以上の御指導をしていただきますようお願いいたしますと同時に、これまでの御指導していただいたことについて心から感謝いたします。

前期研修を終えて

平 田 百合子 (ブラジル サン・ミゲル・アルカンジョ)

去年、4月4日無事日本へ着きました。もう春だと言うのに私達にはまだ肌寒い日々が続きました。来て何日目にか始めて日本のシンボルと知られている桜の花と見る事が出来ましたがそれは自分が想像していた以上に見事でした。4月から5月10日まで海外移住センターで日本語の講習を受けさせていただきました。5月にはそれぞれ研修地へ希望と不安を抱いて別れました。私は静岡市でネクタリンを栽培している農家へお世話になりました。ネクタリンは5月から袋掛けが始まり、てっかのやり方、病虫害防除等。7月にはネクタリンの収穫に入りましたがその間に、ブラジルと日本の農業の大きな違いがはっきりと分かりました。それは商品の選び方、並べ方、箱詰めを日本では丁寧にやります。本当に良い勉強になりました。また、ブラジルでは夏の剪定は今までやった事也没有でした。でも日本へ来て見ると、どれだけ夏の剪定が必要であるかと教えられました。8月、9月は裾野市で酪農家へ移り変りました。いつも富士山が見守っている感じでした。牧場では搾乳、牛や羊の餌の配合調整を学びました。10月は全国で有名な三ヶ日みかんについて、みかんの消毒、施肥の方法、配合の方法、ネーブルの秋枝の管理、10月から早生みかんの収穫、奥生みかんの貯蔵の方法などの勉強をやりました。三ヶ日での3ヶ月の生活では、家族の1人として、農家の御主人や奥さんから実の娘と同様に可愛がっていただき、本当に農家の人達の心温まる出逢いに心から感謝しております。1月からキウイを栽培している農家へ移り変りました。ブラジルでは現在キウイ栽培の研究段階であり日本でもまだ新しい果樹であるということです。今、お世話になっている農家はそれでもニュージーランドから取り入れすでに10年になるそうで、このような経験の上で色々な問題や不明なところを研究していることがわかりましたし非常に勉強にもなりました。私にとってはキウイ栽培は初めてなので何をすることも難しさいっぱいです。剪定のやり方、剪定の仕上げ、土作り、配合肥料のやり方、暗渠排水の方法などを学んでいます。何度も剪定の失敗をやり、一時は、あまりにも難しさに自信をなくすこともありましたが、必死に学ぼうとしている私に絶えず丁寧に教えてくださっています。3月からは去年収穫し、冷蔵庫に貯蔵していたキウイの出荷に入りました。この1年間、振り返って見

ると、いろんな失敗、経験、楽しい事も沢山ありました。又、休みの日には周囲の農家へも行って、いろいろと見学させていただいております。見る事、聞く事は出来るだけ積極的にやっています。8月は4H・クラブの全国大会が栃木県で行われ、これに参加し、友達も沢山できました。10月は石川県で全国農村技術交換大会にも参加し良い思い出ともなりました。これから残りの半年は、これよりももっと早く感じられることでしょうか。あとは悔いの残らない様に頑張るだけと思っています。

前期研修レポート

石井 益 雄 (ブラジル サルバドール)

私が大学で専攻している物理学の知識を活かし、ブラジル国、バイア州内での工業技術面で役立てられる事を望み横河電機に研修を希望しました。

昭和58年4月4日、日本の成田国際空港へ到着しましたが、私の住んでいたバイア州の気候と比較しはるかに寒く感じ、その後の1年間を通じ四季の変化、地震、降雪など体験し、また交通機関、自動販売機、時間の正確さ、勤労意欲等あらゆる面での効率、合理化、コストダウン、スピード等々が日本の企業努力そして貿易経済への発展につながるであろうという事を感じました。

4月18日から横河北辰電機で研修が始まり半年間は機器製造二課で約15種類の計測器の調整技術を学びましたが代表的なものとして 2552 デジタルマルチメータ、2553 直流基準電圧電流発器、2560 DCカリブリオンセットの総合調整、およびトラブルシューティングトレーニングセンターでYEWCONコンピュータ、制御工学の講座に参加、スタンダードラボラトリを見学した。後半は工業計器機製造部門で研修を行ない、

- ① 現場型空気式指示(記録)調節計
- ② 電子式電送器(UNID)
- ③ 記録(調節)計(NRSシリーズ、デジタル指示計)
- ④ 空気式制御システム(100ライン)
- ⑤ 電子式制御(YEWSER, ES80)

の総合調整、組立、トラブルシューティングの研修を行った。②、⑤は最新技術による計測器なのでコスト、オーダスピードで顧客先に対応するためコンピュータを使い総合調整を行い、②は1,500台⑤は6,000台を賄う装置と一定したバランス調整が出来る。

生産技術で部品の実験を行ないレポートに鍍金型修正してもらい修正終了実験を行ない良い結果を得ることが出来ました。また、UNIATCSテスト装置の実験を行い、理論どおりの良い結果が得られました。

昭和59年3月23日、横河北辰電機での研修を終り、この1年間を振り返ってみますとあっという間でした。大学とは違って学科試験で評価されるのではないので自分の技術レベルがどの位に当てはまるのかは、はっきりと出ませんが、電子回路図、計装制御システム、工場の経済的人間配置等を学ぶことが出来ました。更に3月29、30日は第2回知識工学シンポジウム、計測自動制御学会に参加し一流の先生方の研究成果の発表を直接聞くという良い体験をしました。

残り半年間は三菱化成工業黒崎工場、施設部電計技術室で研修を行う事に決っていますが、帰国後は三菱化成のノウハウ、資本が入っているブラジルの会社に入社の話も進んでおり、生産コストの低減、施設設備の自動化、計器保守の技術等々、良質な計器生産に必要な技術および経営のあり方などについて更に学び、将来ブラジルの製造技術の改善、品質管理等工業製品の輸入、輸出面で少しでも貢献できる技師として評価されるよう、研修に一層努力して行きたいと思っています。

前期研修を終えて

関山恵子エリーザ(ブラジル サルト)

ブラジルでFISIOTERAPIA(日本語では理学療法と呼ばれている)の専攻を大学で行いましたが、卒業後、理学療法士として自分が学んだものが時には余り有効でなく悩んでいた折、事業団の技術研修生として日本に来ることができ、すでに1年がたちました。長いようで非常に短い1年間でした。

この1年間を振り返ってみますと、健康には注意をしながら「出来るだけ多くの事を学んでいかなければいけない」と、常に自分に言い聞かせながらやってきました。最初のうちは、日本語があまり出来ないため、1ヶ月間海外移住センターで日本語の読み書き、および日本の歴史、地理、社会、生活について学び、少しづつ日本という国を理解出来たことは、その後の研修に入る際の大変な助けになりました。

研修先は、私の希望していた東洋医学技術(日本では中国医学と呼ばれている)および理学療法の学べる所として、神奈川県総合リハビリテーション・センターで研修することになりましたが、1ヶ月間の日本語研修を受けたとはいえ、最初のうちはまったく専門用語が理解できず苦勞しました。

センターでは、幸いにも今年が初めてであるという中国医学の中の一つとして針灸の5ヶ月コースが開かれ、中国から招待された3名の先生による講義と実習の特別コースに参加することが出来本当に幸せでした。針灸の何千年来の歴史とか西洋医学と根本的に異なる中国医学の考え方の基礎となる、陰陽・気血・四診・針灸の原則治療法、治療効果について、通訳の人の声を通しながら、自分のカセッ

トに吹込み、毎晩これを聞きながら勉強を進めました。また、東医学科では実技を特別にさせても頂きました。しかし、これらを完全に自分のものとするにはまだまだ学ぶべきことは多く、また、ブラジルでも実際に治療をするとすればライセンスが必要となります。日本ではそのためには3年の勉強が必要で、その上国家試験を合格しなければならないことになっています。中国では、日本程ライセンスのとり方が難しくないと聞き、出来ることならライセンスをとって行きたいと思っています。

中国医学の他理学療法についても理学療法科で種々学びましたが、日本での理学療法は歴史もあまりなく、理学療法士も20年前に第1期生が誕生したということで、現在でも吹米に追いつくよう努力していることがわかりました。そのため技術的に日本独特のものがまだ少ないように思われた。それでも例えば、義足、装具、車椅子ならびにLASER寒冷療法のための種々の器械に独得のものが開発されているし、ブラジルではまだ導入されていないMOBILIZATION法等、今後残された研究期間の研修目的としたいと思います。

この1年間は、日本での研修ばかりでなく外国からの種々な情報も得ることができ、この機会を与えて下さった、国際協力事業団と、研修受入れ下さった神奈川総合リハビリテーション・センターの諸先生に心からお礼申しあげます。残された半年もがんばりたいと思います。

前期研修を終えるにあたって

鈴木 かな江(ブラジル マナオス)

1年間の前期講習をふりかえってみて、さまざまな事が思い出されます。本当に日本に来てヨカッタ、そう思います。

研修初めのころはたしかにつらい事が沢山ありました。カルチャーショック、習慣の違い、そんな事が沢山あっていやだと思った事もあります。だがここまで来た以上やらなければならない。そう考え、又、同じ研修の友達ともたかいて励ましあいながらがんばってきました。

昨年の4月から9月まではただ、研修先の習慣に慣れることで一生懸命でした。特に私の研修先である玉川学園大学は他の研修先とは少々異なっていて悩まされることもありました。しかし、そこで教えていただいた先生方は素晴らしい方ばかりでした。ここには日本でも一流の先生方が集まっていると聞かされていたのですが、その先生方の授業講義を聞いて、本当にそうだと思いました。

9月～3月の研修はただ慣れるだけではなく、物事を自分で判断して自分から積極的に行動しなければならなかったのが、研修先の先輩にも色々と迷惑をかけてしまいました。失敗して覚える、正にその通りで失敗した事も沢山ありましたが、それだけに覚えた事も沢山ありました。

又、9月からは授業の他、幼稚部での見学実習も入り、忙しくなったのですが、現場に立って見聞

をひろげ、体験しながら学ぶ事が出来てとても良かったと思います。

研修先では寮(塾)で生活し、その中でも学ぶ事が多いです。月に一回は行われる行事、その行事にも参加しなければならぬので忙しいながらも、楽しい1年を過ごしました。学ぶ事が沢山あって、“アッ”というまに過ぎてしまったようですが、それだけに長く、内容の濃い研修となりました。研修外でも塾の行事、書道、美術部、音楽祭、体育祭などにも参加し、より多く日本の文化、習慣に触れる事が出来て良かったです。

これから後期研修が始まるのですが、今までよりも、より一層がんばっていきたいと思います。

早く自分の国へ帰り、学んだ事を皆さんに伝えたいと思う反面、まだまだ学ばなければいけない事がある、もっと日本にいて学んでいきたい、そんな2つの気持ちに悩まされる事もありますが、残りの半年間の後期研修は、今までより以上にがんばることを誓います。

前期研修を終えて

高橋 幸夫(バグアイ アルトバラナ)

月日が過ぎ去るのも早いもので、もう1年がたち、振り返れば長いようで短い1年でした。日本へ入国した時、種々の不安でいっぱいでした。不十分な日本語で研修についていけるのか、病気になったらどうしようか、こんなことを思いながら研修地へ行きました。

前期研修は愛媛県上浮穴郡久万町、久万農業協同組合で、農業機械修理、整備技術の講習を受けました。

初めの3ヶ月は、仕事に慣れるため見習いをしていました。

それから少しは仕事や生活にも慣れたので岡山県にある全農岡山講習所へ農業機械の基礎講習を受けに行かせてもらいました。この講習は1ヶ月間で厳しい毎日でした。限られた期間で多数の機械の構造、部品名を覚えること、それに3日に1回の試験があったので高校時代を思い出しながら夜おそくまで猛勉強したりしました。とくに日本語の不得手な私は、部品名を覚えるのがたいへんでした。

基礎講習を終えてからすぐ、ガス、電気溶接技術講習を受けました。電気溶接はあまり危険性がないので安心して実習できましたが、ガス溶接は、アセチレンを使うので爆発する可能性があるので実習もあまりはかどらずたいへんでした。何回も溶接をやっているうちにおもしろくなり安全確認のことなどわずれ夢中になったりして先生方に叱られたりもしました。

8月から又農協へ帰り今度は実技研修を今年の1月までやりました。基礎講習を受けてから機械の構造もわかるようになったので修理も時間はかかるが一人でできるようになり、先輩と農家へ修理に行くこともありました。

更に2月には岡山講習所へ行き今回は、乗用トラクター整備技術講習会を受講した。この講習会はわずか1週間でしたが、日本語の読み書きも多少できるようになっていたのでもうとまどうことはありませんでした。岡山講習所はとってもいい思い出にのこる研修ができました。良い講師たちに出会えてとてもしあわせでした。

技術はまだ未熟ですが、なんとか基礎的なことはマスターできるようになったので、後は経験をかさねるだけです。

前期研修では自分の希望していたコンバインの整備修理技術の研修ができなかったので後期研修でがんばろうと思います。この1年間無事過ごせたのは事業団の皆様のおかげです。これにこたえる為には帰国後できるだけ日系人移住地に役立つよう頑張ろうと思います。

前期研修レポート

永野 則 武 (ブラジル ヴィアモン)

この1年間熊本県農業試験場園芸支場で野菜栽培技術の研修をおこないました。

ブラジルとは土壌、気候等自然条件は違う面が多いなかでの研修ではありますが、日本のすばらしい進んだ野菜栽培技術の勉強ができました。1年間試験場にいたのでトマト、スイカ、メロン、キュウリ、カボチャ、ナス、中国野菜のは種から収穫までの期間を通じて栽培技術を学ぶ事が出来ました。

その期間トマト、キュウリ、メロン、スイカなどの接木、人工交配ホルモン処理(トマトトーン、ジベレリン)又、薬剤散布、土壌消毒、くんえん、除草剤、収穫や色々な調査のやり方を学ぶ事が出来ました。でも今日本はブラジルと違ってほとんどが施設園芸の管理がコンピューター化或は自動的操作方式になっていてハウスの管理の人の手があまりいらないようになっています。こんな事はブラジルではとても考えられないことですが、栽培技術、肥培管理等の技術面は広い土地の露地栽培のブラジルでもやくにたつ事が多くあります。

振り返りますと横浜での合同研修が昨年4月7日に終って研修地へ行っただけなのに知らない日本の農業を学ぶ事に馴れる迄はかなり苦労しました。初めは毎日、朝の温度調査をしながらハウスを開ける仕事でした。スイカ、トマト、キュウリの収穫、調査などもやり、病害虫防除のためにDDVPのくんえんや1週間に1度の薬剤散布、一作が終るたびに土壌消毒をしました。スイカ、メロン、トマト、その他の植付作業もしました。今の日本の農業は、とくに野菜も最近では接木などの技術が進んでおり、多くの野菜がこのシステムで栽培されています。栽培管理での一番の問題は病気のたいさくです。根の強い品種に良い果実のとれる木を接ぎます。こうしてハウスとかわった技術で収穫の量を多くとります。

この1年間、試験場で学んだ事の他に県内の現地研修にも行きました。最初はスイカ、メロンのハウス栽培を見学に行ってきましたし、8月には阿蘇に高冷地野菜栽培の現地研修に行ってお大根、レタス、ホウレンソウ、トマトの雨除け、風除け栽培を視察に行き10月は八代地区に現地研修でトマト、メロン、イチゴのハウス栽培を見学してきました。2月は熊本井関農機工場の見学で、3月1日から3日まで鹿児島県現地視察研修でにんじん、トマト、イチゴ、ピーマン、ナス、エンドーマメ、ソラマメ、パレイショの栽培視察に行きました。3月12日～13日は北九州の青果市場や肥料工場の見学もしました。

日本へ来て一番よかった事は熊本Y M C Aへ毎週土曜日に日本語の勉強に行けた事です。ここでは日本の人たちの他に各国の人も来ていて色々な事を知りました。時にはいっしょに旅行をしたりスポーツをしたりで楽しい日本の生活をすごしました。研修もあと6ヶ月、熊本の果樹試験場で勉強をする事になりました。くいのないようせいいっぱいがんばって行きたいと思います。

前期研修を終えて

松尾 やよい(パラグアイ フラム)

この1年を振り返って、自分がどれだけ成長したか。この1年を通じて、日本のめぐまれている自然も味わってきました。花見、地震、台風、雪、小さなことにも感激をしてきた。多くの友人ともめぐり合え、彼らからいろいろと吸収し、彼らも、私と知り合ったことで、何かを学ぶことが出来たと信じたいものです。

さて研修の前期は、高知女子大学保育短期大学部で聴講生として学んで来ましたが、今になって考えると、これと言って不自由したことはなかった。それは、私が日系二世ということで、回りの人達に特別に見守られていたからだと思っています。ただ残念なことは、私達二世は、日本で大学を正規に卒業することが出来ないことです。

1、2回生を合せて100人の少人数の大学でしたから、教授達とも個人的に話すことも出来、日常の講義のほか、生活や、帰国後のこともアドバイス等して下さいました。また、大学の行事にも参加することができ、大学祭の研究には、非行少年の研究グループに入れてもらった。なぜ現在、このように非行の問題が取り上げられるようになったのか、研究の進め方などで遅くまで、打ち合わせをする時もありましたが、学内の勉強より非行の実態調査で、児童相談所や警察等の話や資料を読ませてもらったりしたことで多くのことを知ることが出来ました。

幼児期は、人間が一生のうちで、もっとも成長する時期であるから、幼児の人格形成のための助長など、その年令に合った指導法や生活、栄養等を学んできました。

保育にどうしても必要なのは情操教育ですが、その中で楽器の操作について成人してからの私にとって、これを習うのは、人一倍の努力が必要です。そこで後期の実習期間で、できるだけ幼児のための童謡を数多く覚えて行きたいと思っています。

今までは、学生として生活してきたため、幸いにいろいろと休みがあり、この期間を利用して、近くのデザインスクールで、洋裁や編物を習うことが出来ました。そのほか短期間ではあったが書道も勉強しました。

後期は、研修先も変わり、実習に入るので時間的に大変になってくると思います。後の研修は保育の勉強だけではなく、ほかに日本でなければ学べないものなど、できるだけ多くのことを学び、この時間を有効に使いたいと思っています。

前期研修を終えて

親 川 メリ子 (ボリヴィア オキナワ)

昨年4月に、地球の裏から、国際協力事業団移住者子弟技術研修生の1人として、日本に留学し、もう早1年たちました。最初の1ヶ月間は、私達第13回生から初めて、日本語の講習があり漢字や言葉の意味を勉強しました。先生方もよく教えて下さり、たまにはお話をしたりして楽しく学びました。

5月9日、皆、各研修先へ向い、私は沖縄名護市役所で経理の研修をすることになりましたが、全く経理の経験がないためとても困りました。そして1ヶ月後、国際協力事業団の紹介で、沖縄市に研修先が変わり、沖縄経理専門学校に入りました。最初の頃は、難しい漢字ばかりが教科書に出ていてその上、説明の意味も理解できませんでした。ある時は授業がわからないので学校へ行くのがいやで、何度もボリヴィアに帰りたいと考えたりしましたが、せっかく素晴らしいチャンスをつかんでこられたのだから、どんなに辛い事があってもくじけずに最後まで、精一杯がんばってこうと決心しました。そして校長先生はじめ諸先生方が放課後に残して、私を毎日特訓して下さいました。その後1ヶ月2ヶ月と過ぎるうちに漢字も少しずつ読めるようになり授業にもついていける様になりました。友達も多くでき、この1年間楽しく学ぶことができました。わからない所があると先生方、友達に教えてもらいました。検定前は、夜まで学校で補習をしました。また、校長先生は、皆を激励したり、お腹がすくだろうと、ラーメンを出されたりしました。この励ましのおかげで、工業簿記一級、簿記三級、計算実務二級、法人税三級、珠算三級に合格することができました。そして検定が終わった後に先生方が、ボウリング、バレーボール大会、ピクニックとかいろいろな、スケジュールを3ヶ月ごとに組み、皆で楽しく過ごせました。

3月からは、校長先生の紹介で那覇市、宮田公認会計士事務所で実習することになりました。そこ

では伝票の計算、財務諸表の作成、精算表をコンピュータにうちこんだりしています。

3月24日には、学校の卒業式が行なわれました。この1年の間は、とれなかった級を今後夜間に通っても勉強したいと思っています。チャンスがあるならば、もっと簿記について学び、ぜひ一級をめざしてがんばりたいと望んでいます。

現在まわりの人々に恵まれ充実した毎日を送っています。

そして、後期間もそのまま続けたいと思っています。

前期研修について

近 藤 豊 (ボリヴィア サンファン)

去る昭和58年の4月に第13回移住者子弟研修生の一人としてボリビア国サンタクルース州からこの偉大な国、日本へ訪ずれました。

日本は私にとって第二の国でもあるのですから、色々な面に関して興味深い国でもありました。

私は、この1年間東京都内亀戸にありますが都立亀戸職業訓練校の電子計算機科の方へお世話になりました。

職業訓練校での勉強は、コンピュータのソフトウェア開発(プログラム)の勉強をやってきました。

ご存じのとおり、現在もっとも世の中ではエレクトロニクス産業が盛んになっている中で最もコンピュータが主体となって活躍していますが、コンピュータでも超大型機から超小型機まであります。

エレクトロニクス産業が著しく発展しているのは、実際には色々なソフトウェアがあつての事だと思ひます。そのソフトウェアをこの1年間ほんの少しですがかじってきた訳ですが、想像していたよりはるかにむずかしく悩まされる事ばかりでした。

ソフトとは、実際にプログラムの事だと思ひます。プログラム言語としてアセンブラ、フォートラン、コボル、PL/Iを勉強してきました。このほかに、数学、ハードウェア、簿記、経済学と色々なプログラムを組むのに必要な基礎的学問を学びました。

今、じっくり考えて見ますと、本当に奥深い道に入り込んだものだとつくづく思ひます。しかし入った以上しっかりと頑張りたいと思ひます。

研修と言っても勉強だけではなく日本の国、歴史、文化、社会と色々な面に関しても、これからも目を大きく広げて見ていきたいと思ひます。

この1年間が過ぎ言える事は、日本は世界の中でもっとも恵まれた経済大國だと思ひていましたがそうではなく他の国と同じく経済的、政治的にも苦しみながらうまくそれを工夫しながら国を治め世界的な先進國になったのだということがわかってきました。

私も同じ日本人なのですが住んでいる国によってそれぞれの国の特質を無視することはできませんので、ある面では日本に来て日本人との接触にも、考えながら行動しなければいけない時もあり、又一方では単一民族国家の日本人特有の考え方もしっかりと勉強しなければならない事ではないかとも考えたりしています。

私が今、一番やらなければいけない事とは、このすばらしい日本の色々な技術を修得する事じゃないかと思います。

今年の4月からは、ソフトウェアハウス（プログラムを作っている会社）での研修が始まるのですが、日本の会社での仕事は、私にとっては初めてですので研修そのものより会社の中での人間関係など、どうなるのか少し緊張している次第です。

前期研修を終えて

野村 譲 二 (ブラジル リオ・デ・ジャネイロ)

私は、ブラジルのリオデジャネイロから日本農業の勉強に来て早いものでして1年過ぎました。日本の第一印象は、右を向いても、左を向いても何と人が多いこと。さしずめ、ブラジルのカーニバルを思わす状況でした。

次にびっくりしたのが、福岡県農業総合試験場について先生の案内で見たビニールトンネル・ビニールハウス・ガラス温室とその中に育つ数々の作物でした。果実あり、花あり、そして野菜と多種多様。しかも温度のコントロールやかん水までがオートマチックに出来ることでした。ブラジルは土地が広く、気温も高いのでこうした施設や作物を自由自在に作る農業は見たくてもありませんでした。

研修地では、先ず早く友達や日本の生活に馴れる事が一番でした。ブラジルでは卒直に言って日本語をあまり勉強していませんでした。ですから、最初はちょっと苦勞し、ためらうこともしばしばでした。それと私の顔やかたちは日本人。だから、私に話かける時は日本人と思って日本語で、という具合でした。よもや「ブラジル人」とは見られないから、それも当然でしょう。

現在、試験場でかんきつ栽培の研修が終り、かんきつ栽培について接木、薬剤散布、肥料散布、チッカ剤の試験、果実分析、収穫、剪定など多くの技術を学ぶことができました。時々先生や実習生達と農村へ行って日本農業を見たり、いろいろな試験や観察もしてきました。あと6ヶ月間、同じ野菜栽培を勉強したいと思っております。春から夏の間ですから温室の中で野菜栽培も暑くて大変だと思います。

私の実家ではかんきつ類を4ヘクタール、グアバを16ヘクタール栽培しております。将来は野菜とかんきつ類を増やしたいので日本で学んだ農業技術や農家経営を生かして頑張りたいと思います。

なお、私の両親は北海道旭川の出身で、昭和33年にブラジルに移住しました。北海道は冬になると雪で白一色となり、窓からはつららが下がり、農業では作目が一年一作という厳しい環境だと聞いていました。私も日本の厳しい寒さや初めて雪を見る事ができたので、両親の生れた国としての共通の感じ方が出来るようになったと思います。帰国するまで1度両親の生れた故郷も見に行きたいので、夏に研修旅行を計画してできたら北海道までと今から楽しみにしています。

前期研修を終えて

森岡正行(ペレーリマ)

日本についてから早1年間たちました。その間に毎日新しい経験がありました。この過ごした1年間の中で私が自分をよく知る事が出来たことに感謝しています。私にとってはこのことが一番勉強になったと思っています。そのほかにはたくさん友だちができていろんな国のことを知ることができ、視野と人間関係が広がって大変良かったと思います。

去年4月4日に13回生の皆さんと成田空港に着きました。そのころ私にとって肌寒く感じました。最初の1ヶ月間は横浜移住センターで日本語の研修を行いました。そこでは日本の歴史と地理、それから日本語の文法と漢字の読み書きを教えていただいて、本当に興味を持ちました。そしてこれから研修先に行く準備としてたいへん為になって良かったと思います。

私の研修は5月から始まりました。初めの半年間は東京銀行新宿支店に外国為替の研修をさせていただきました。その中では為替に関する種々な規則を勉強しながら仕事で実務面で学ぶこともしました。その間に外国送金業務と受けのやり方も教えてもらいました。

最初カウンターに出た時にきん張しいろいろな疑問が頭に浮かびました。でもどンドン仕事をする内になれてきました。東京銀行の皆さんは私にたいしてすごく親切に教えてくれます。

第二の半年間は東京銀行外為センターに移動しました。ここではほかの銀行からの研修生と一緒に外国為替の講義、輸出入の外国送金と貿易関係の法律のべんきょうをしています。毎日6時に起きて朝食を食べてから銀行の寮に出かけ、そして8時半に外為センターにつきます。

帰る時間は5時半ですが研修が終わってからも行内業務を残業しながら実務研修をすることもあります。銀行の為替業務は毎日そがしい仕事をしています。

寮に帰ってから夕食を食べながらテレビを見、その後の自習時間は、外国為替の教科書を読みながら分からないことを辞書で引きます。

後6ヶ月の研修にも頑張っていきたいと思います。

前期研修を終えて

伊 敷 勉(ボリヴィア オキナワ)

両親の祖国である日本で技術研修を始めて、もう1年が過ぎました。

この1年を振り返って見ると、楽しい事や苦しい事色々あり長いようで短い1年でした。

最初の半年間は、沖縄県南部農業改良普及所の紹介で、ある酪農団地で3ヶ月間乳牛飼育研修を中心にがんばってきました。

最初は牛の草刈りから初め搾乳、子牛の管理、サイレージの作り方などを学びました。

特に感心した事は高水分が原因でサイレージが不可能といわれていたネピアグラスが普及員のご指導で見事なサイレージができた事でした。こういう普及員の指導や、国の農業者補助事業など、日本の農家をとてもうらやましく思います。

週に一度、農業青年の技術交換会に参加し、休日の日は仕事場の方々と一緒に水中銃や、スノーケルを持ち沖に出て楽しんだり、ビーチパーティなど楽しい日々を過ごしたのも良い思い出につながりますが一番印象に残ることは、朝は早くから夜は遅くまで、ほとんど年中無休の仕事である酪農家の努力と厳しさを体験したことです。

その後、大里村で農家住み込みで3ヶ月間肉用牛飼育研修を中心に、乾燥草作り、堆肥作りなどの訓練を受けました。休日の日は農業青年の仲間作りのため社交ダンスパーティやキャンプなどに参加させてもらいましたのでとても良い友だちも数多くできました。

初めの半年間の研修を終えてみると確かにそれなりに良い勉強にはなりましたが研修内容が自分の希望していたものとは必ずしも一致しない面が多いため私としてもわずかの期間だけに希望していた事を学ぶことのあせりもあり研修先を事業団の方から新たに紹介してもらいました。今、考えてみると自分のための最良の研修をしたことから事業団の方々や、研修先の方々にもずいぶん迷惑をおかけしたと思っています。

その後、研修先が与那原町にある株式会社沖縄県組合機械に変わって農業機械の整備研修の訓練を受けることが出来、大変頑張って勉強しています。

夜は会社からもらった自動車、トラクターの整備のためのマニュアルや修理の基礎的な指導参考書により勉強をしたり、また、たのまれて友達にスペイン語をおしえたりのかなかなか急がしい毎日が続きました。

この1年間沖縄でとても良い先生方や普及員、そして多くの友だちと接する事が出来とても良かったと思います。

後期研修は、このまま沖縄で農業機械の修理、整備の技術をさらに深めたいと思います。

前期研修を終えて

東恩納マリア・エレーナ (ペルー リマ)

私達が、国際協力事業団の第13回の技術子弟研究生として、日本に着いてから早くも1年が過ぎました。

今まで学んだことをまとめてみますと、成田に着いた時の最初の日本の印象、1ヶ月間の海外移住センターでの日本語を学んだこと、初めてみた桜の花、沖縄に着いた日、保育園で子供達と過ごした毎日、色々なことが目に浮びます。

私は日本で生まれただけに、いつも日本の国、あるいは日本に関することに非常に関心を持っていました。日本の政治、経済、技術、教育、歴史、その他等。そして特に幼児教育には強い関心を持っていました。

ペルーで心理学の専攻を終えて、保母である友達と保育園を開く準備をしていましたが、その途中、事業団によるこの制度で日本の研修ができることを知り、日本における幼児教育の内容や方法などについて実際に勉強できることになりました。

研修先は自分の出身地である沖縄県の具志川市の教育委員会の「すこやか」保育園でした。

ペルーではあまり日本語を話す機会がなかったので、他の国の研修生にくらべると自分の日本語は至って不十分でした。このため、7月から夜は国語の塾に通って日本語の勉強をしています。

保育園では、1ヶ月半おいて、0才児から4才児までのクラスを回りました。そして、今年の1月と2月に同じ市の天願幼稚園と兼原幼稚園でも実習をしました。

保育園に入って、色々なことに感激しました。先生方の仕事に対する責任感、そして、幼児のグループ連帯感を養うためのさまざまな方法や運動、特に「お当番」の役割組織はとてもいいことだと思いました。

よく講義や教育研究会にも参加しました。最初は講義の内容の意味も分からなくてすごく迷いましたが、多くの研究会に参加したためだんだん新しい専門用語にも接触し、すこしづつ分かるようになりました。

今後の研修は児童心理学の勉強をする目的のため、沖縄の琉球大学の児童心理学科の石川先生の指導で勉強することとなっています。

ペルーに帰ってからはここで学んだことの総てが簡単に活用できるとは思いませんが、応用・創意工夫しながら精一杯頑張って、できるだけ早く国の幼児教育のために働きたいと思います。

日本での1年は思いのほか早く過ぎてしまいましたが、今までの研修はだいたい予定通りに出来たと考えていますがやはり日本語の理解力をもっとしっかり勉強しないとイケないと感じています。

これからも一生懸命頑張りたいと思います。

前期研修をふりかえって

玉 腰 活 信 (ブラジル ジャカレイ)

日本に着いてから1年が過ぎ色々な事を学びましたが、レポートを書くにあたって何からスタートすればよいか頭の中には色々なことがかけめぐります。

まず日本に着いてからの1ヶ月間は日本語の研修が海外移住センターで行われた。内容は日本語の読み書き、日本の歴史や社会、日本の生活等についてを学び、それをこの1年間自分の体で確かめてきました。

5月から10月までは愛知県農業総合試験所養鶏研究所が研修先になり研究所では色々な技術を習って来ました。まず最初は専門の漢字がわからなかったのをこれを勉強しながら研修を続けていこうにしました。

しかし月日が過ぎて行く間、楽しい事も悔しい事もありそれでも私にとっては一つの経験ともなりました。

農業総合試験所ではブロイラーと採卵鶏の種々な試験、衛生の研究、飼料の分析などのほか養鶏経営のあり方等についても学びました。

また、毎月色々な研修見学の機会もあり、最初に愛知県豊田市にある養鶏所でビニール鶏舎を見学しました。これは鶏舎建設コストの節約をねらったものか、とても簡単に作られており、誰も簡単に羽数を増やせること、また、どんな場所でも建てられるような鶏舎であることが特徴でした。

私の目的は、日本の技術を身につけてそれらをブラジルの気候・風土に合わせていくつもりで、特にブロイラーの飼育技術に関心をもって習ってきましたが、日本で使われているものとの技術の差はそんなに開きはないと思いました。ただ施設の自動化が進められているために働く時間が比較して少なく、研修中もこの暇な時間は、研修には直接関係のないことでも進んで手伝うことにしました。

この6ヶ月の間には色々な鶏病が発生し研究所としては大変な問題になりましたが、私はこれを幸いに衛生の先生と共にこれを研究材料としながら研修を受けました。

農業総合試験所で6ヶ月の研修がおわり、次は愛知県一宮市の浮野養鶏所で5ヶ月間の研修を行いました。養鶏研究所で学んだ事を自分で実際に使えて良い機会と見ていましたが、しかし、研究所での技術と実際とは必ずしも合わないところもあり、なるべく色々な話を聞きながら研修をつづけていきました。この養鶏所ではブラジルと比べると同じ面積で倍の羽数を飼っていることにおどろきました。それでいてこの採卵鶏舎は色々な技術を導入してとてもよい環境となっています。

この1年間の共同生活の中で学んだ種々なことは、私にとっては技術の研修以外でも非常にプラスになりました。あと残るわずかな期間を大切にがんばりたいと思います。

前期研修を終えて

宮下 彰 (ブラジル ミナス・ジェライス)

私は、ブラジルのミナス・ジェライスから日本へ果樹の勉強に来て、早くも1年がすぎました。初めて外国で研修が出て、とても嬉しく思っています。私は日本語特に漢字がわからなくて苦労しましたが、私は1ヶ月間、海外移住センターで日本語の勉強をすることができ、とてもよい勉強になりました。生れて初めて桜の花を見ること、また東京近辺の見学も私にとっては良い思い出の一つとなりました。研修先は秋田県果樹試験場でりんごの技術を勉強しました。なれる迄は秋田県の言葉(方言)がとてもむずかしく感じました。試験場では私はわからない言葉の一つ一つを、先生や友だちに聞いて勉強することから始めました。今は秋田の方言もあるていどわかるようになりましたし、ブラジルでは仲々学べないりんごの栽培技術が秋田県の試験場で、種々勉強できることは何ととってもうれしく思っています。

この1年間の研修をあげますと、

・りんご栽培の土壌分析と土地条件

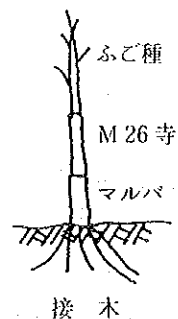
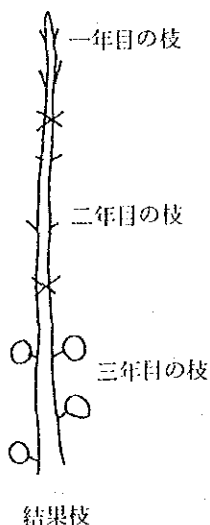
土地の排水状況と土壌病菌、PHなど

・りんご樹の栽培管理

苗から成木まで3年かかること

りんご樹の整枝、剪定の仕方

わい化栽培のための接木法



摘花の意味

病害=ふらん病、モニリア病、黒目病、赤星病、うどんこ病、斑点落葉病、もんば病。

虫害=りんごハダニ、ナミハダニ、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ユキヤナギアブラムシ、りんごワタムシ、クワコナカイガラムシ、ギンモンハモグリガ、キンモンホンガ、モモチョッキリゾウムシ、シコクアナアキゾウムシ等

りんご栽培に必要な1年をとおした技術を身につけることができました。

また、青森県、岩手県の試験場でのりんご栽培の見学にも行くことができました。

研修のあいまには、秋田県の雪祭り、花火大会、日光東照宮の見学もできたほかに、日本のお正月をおくることができたことは、本当に良い思い出になりました。

私は、国にかえってから、日本のりんご栽培にまけないようなものをつくりたいと思います。

前期研修を終えて

四元 マリア・セレージャ (ブラジル マラニオン)

昨年(2010年)の4月8日に着いた最初の印象はさくらの花がさいてとてもきれいであったことでした。

研修先は宮崎県農協果汁株式会社で1年間食品加工の研修を受けましたが、いろいろと良い勉強になりました。缶詰、瓶詰、ジャム、砂糖漬け、オレンジドリンク、プレザーブスタイルジャムなどの作り方を勉強しました。

研究室では食品分析方法(糖度、酸度、PH等)、ピペットの使い方、果汁の糖、酸の調整方法、缶詰、ジャム、砂糖漬けの検査方法を勉強し、現場では瓶ライン、缶ライン、搾汁ラインの農産加工(メロン加工、いちご加工、キウイ加工、日向夏みかんのマーマレード、キウイのプレザーブスタイルジャムの作り方)なども勉強しました。

私にとって日本で一番住みやすいと感じた季節は春と秋。夏は私の住んでいるアマゾンよりムシ暑くまた冬の寒さには本当にこたえました。しかし、日本のこの四季の体験は私にとって良い思い出になりました。

日本での生活は、宮崎県農協果汁株の工場長の家にお世話になりましたが、このご夫妻は私にとって日本でのやさしい父と母として、1年間面倒をみて下さいました。生活習慣の違う私をときには厳しく指導もしていただきました。

時には会社の研修旅行に参加し、鹿児島まで見学に行ったり、スポーツ大会でのソフトボール等々も非常に楽しい経験でした。

国際協力事業団の計画する研修旅行への参加、熊本、福岡(太宰府天満宮)、横浜(マリントワー

見学)、江の島(水族館)、横浜港観光船見学、東京タワー、日光(東照宮)華嚴の滝、中禅寺湖、龍頭の滝等を見学もしましたがこれら旅行見学はとても良い思い出になりました。また、今年は雪が多かったこともあり、生れて初めての雪の中での生活も忘れられないものとなりましょう。

日本の生活にもだいふなれましたのでこれからの残り半年より一層がんばりたいと思います。

前期研修を終えて

曾 根 睦(ドミニカ サント・ドミニコ)

第13回移住者子弟技術研修生として、日本へ着いてからもう1年たちました。

日本へ来た私は、日本語も知らなくてとても不安でした。私は5才のとき両親につれられドミニカに移住しました。

私の研修は、弱電で特にVTRとカメラの技術の修得であり、静岡電機へ行きましたがそこではエレクトロニクスの研修ができませんでした。そこで5月の終りに静岡電機の方とも相談の上、三カ所の会社で研修が受けられるようにしてもらいました。6月から東芝サービスセンターへ行くことになりここで初めてカメラの研修ができました。東芝は素晴らしい技術をもっている会社であり、そこでカメラの修理技術の研修を受け、その後9月からはナショナル・サービスへうつり、そこでもVTRとビデオカメラの修理技術を学びました。

11月からは2ヶ月間大阪の松下研修所においてカメラとビデオの構造・技術等の講義を受けました。

そこではカメラがどのような構造となっておりどのような部分々々の働きをするか等々について学びました。また、工場見学もさせていただきました。松下大阪工場は4千人ちかくの従業員が働いていてそのうち工場には、全体の約80%の人が働いているという事です。この工場でロボットを初めて見て、日本の技術がいかに進んでいるかを実際に知ることができました。この会社は日本でも会社としては新しいが技術的にはもっとも進んでいる会社であるとの紹介があり、このような会社で研修の出来ることに改めてうれしく思いました。1月から2月にかけてソニーサービスセンターでVTRとカメラの修理技術と、構造・配線図等の講義を受けました。この三つの会社における研修は、おたがいに競争している会社であるだけに、普通の日本人では三つの会社で同時に研修を受けることができないこととなっていますが、私は外国からの研修生ということで、特別に研修を受けることができるとてもうれしく思いました。

私は、この三つの会社での研修を受けてそれぞれの会社の製品の修理技術の上でまったく違う所もあり、また仕事のやり方についてはほとんど異なっていてサービスの仕方も違う所があり、私なりに種々と考えるところがありました。

ソニーのように会社によっては、個人にかんたんに修理技術すら教えたりしないところもあり、その中でこの三つの会社で色々学ぶことができたことについては、各会社の関係者の親切なご指導とともに大変感謝いたします。